

2008/06/16 作成版

JICA 農村開発部

エクアドル国チンボラソ県農村部貧困削減プログラム・プレフェーズ 事前調査実施に向けた事前質問票

【注意事項】

- 他課題部からの質問と重複する部分がある場合は、他部の質問票で回答いただき、こちらでの回答は不要です。
- 一部に、ジェンダーに配慮した質問項目を含んでおります。対象農村地域は、男性の出稼ぎが多く、そのため女性が生活の担い手となっている状況を、協力を反映させるために調査します。質問票回答は男性・女性の別に分け、男女別集計がしやすいようにしてください。実際に農村を調査するのであれば、可能であれば女性の調査員が対応すると、農村女性も話しやすいと思われます。
- 今回、調査できない項目、データが存在しない項目については、「データなし」と回答下さい。不足している情報は、案件での調査対象（ベースライン調査）とすることを検討します。
- 質問項目 2 及び質問項目 3 は、農村住民の平均的な生活状況、営農活動を把握するためのものです。時間的な制約を考え、プロジェクトが対象とする貧困レベルの区（パロキア）を 2～3 つ程度選定していただき、実際に聞き取り調査を実施して情報を収集願います。なお、調査方法については、① JICA が直接調査する、② コンサルタントに委託する、③ チンボラソ県に依頼する等、のいくつかの方法が考えられますが、調査結果が抽象的で根拠が無く推測で書かれるような調査報告書ではなく、具体的な内容が示される方法で、調査を実施願います。

【質問事項】

1. チンボラソ県農村の基礎情報

郡別情報

- ① 【調査対象：全郡、調査レベル：郡レベル】 郡別基礎情報（郡別の面積、人口密度、成人男女別人口、未成年男女別人口、農地面積、男女別非識字率、男女別貧困情報、気象データ（月別降水量と月別気温）、土壌情報、土地利用情報）
- ② 【調査対象：農村区の郡、調査レベル：郡レベル】 主な栽培作物とその栽培面積、生産量、単位面積当たりの収量の推移（*情報がない場合は、県レベルのデータで代用）

- ③ 【調査対象：農村区の郡、調査レベル：郡レベル】 主な家畜と飼育頭数
ならびに生産量 (*情報が無い場合は、県レベルのデータで代用)

農村区パロキア情報

- ④ 【調査対象：郡の中の市外区 (Parroquia Urbana) と農村区 (Parroquia Rural) の内、農村区に区分されるパロキアが対象、調査レベル：パロキア (Parroquia) レベル】 県内の農村区パロキアについての詳細情報 (集落数、集落の位置、各集落の情報<面積、人口、営農形態<栽培作物、飼育家畜など>、一戸あたりの農地面積など)

2. チンボラソ県の貧困農村部の活動、農業活動の現状調査 (農村区のパロキア、またはコミュニティレベルで調査)

- ① 農村部における農業収入が占める割合
- ② 農村部におけるその他の産業 (代表的なものを抜粋)
- ③ 農村部の主要な農業経営形態 (農村部における大農場、自作農、小作農、土地なし農民、労働作業員などの労働形態別割合、その形態別に男女差の程度)
- ④ 農村部の天然資源管理と利用方法 (土壌、水、森林等の所有、保全、管理は誰がどのような方法で実施しているのか。男女別利用方法 (例えば換金のための材木は男性が使い、下枝は女性が薪に使うなどの違いがあり、所得向上のための活動を考える際の参考になる。)
- ⑤ 農業に関する組織の有無と、その組織への女性の参加状況
- ⑥ 農業に関する地域内の女性組織 (NGO 等) の有無とその活動状況
- ⑦ 農村部農業投入材への入手と管理 (次の投入材について、どの様にして、誰が購入し、管理しているのか。男女の相違についても説明。なお、男女に違いがある場合はその理由も記述する。)
- (ア) 種子と苗木
 - (イ) 肥料と農薬
 - (ウ) 畜力
 - (エ) 農機具、農業機械
 - (オ) 飼料、家畜医療薬品
- ⑧ 農村部資本の入手と管理 (次の資本について、どの様にして、誰がアクセスし、管理しているのか。男女の相違についても説明。なお、男女に違いがある場合はその理由も記述する。)
- (ア) 短期クレジット

- (イ) 中長期クレジット
- (ウ) 土地（土地の所有権、相続、賃借についても言及）
- (エ) 農業用水
- (オ) 農業技術、農業情報
- ⑨ 農村部の農作業の内容と担い手（次の生産物に関して、誰が、どのぐらいの作業を、どの様に分担されて実施されているのかを男性、女性を区分して説明）
 - (ア) 自給用作物生産
 - (イ) 換金用作物生産
 - (ウ) 家畜飼養
- ⑩ 農村部の農家経営（意思決定）
 - (ア) 労働報酬の分配（家族経営における労働報酬がどの様に分配されているのか）
 - (イ) 支出内容の決定（大きな出費がある場合、誰がこれを決定しているのか）
 - (ウ) 年間の経営内容の決定（作目の決定、労働力の確保、農業投入材の決定は誰が実施しているのか）
 - (エ) 家計の管理（誰が家計管理を行っているのか）
- ⑪ 農村部の収穫後作業の内容と担い手（次の項目を実施する際、誰により、どのぐらいの作業を、どの様に分担されて行われているのかを男性、女性を区分して説明）
 - (ア) 収穫後処理
 - (イ) 貯蔵
 - (ウ) 加工
 - (エ) 輸送
 - (オ) 販売・流通
- ⑫ 農家の経済状況（一戸あたりの農業収入、農外収入など）

3. チンボラソ県の貧困農村部の生活の現状調査（農村区のパロキア、またはコミュニティレベルで調査）

- ① 農村部の水利用、管理
 - (ア) 生活用水の確保の方法（誰がどこで、どの様にして、どれだけの

時間かけて生活用水を確保しているのか、この場合の女性の役割は何か)

(イ) 家庭内の水管理の方法 (誰が、どの様にして家庭内の水を管理しているのか)

(ウ) コミュニティの水管理の方法 (水源の所有権は、また誰が、どの様にして管理しているのか)

(エ) 下水、衛生施設の有無 (誰が、どの様にして、下水を処理しているのか)

② 農村部の衛生・医療状況 (次の項目実施において、女性/男性はどのような役割を担っているのか)

衛生状況

(ア) 公衆衛生 (飲料水水質への配慮、手洗いや水浴の励行、子供へのトイレ指導等)

(イ) 衛生教育 (衛生情報をどの様に入手して、誰が指導しているのか)

医療状況 (以下2点の内、別途、発出されている保健医療セクターの質問と重複する点については、割愛して下さい)

(ウ) 郡別の医療状況 (医療施設の有無、有の場合はその規模など)

(エ) 農村部で多い病気

③ 農村部の栄養摂取状況

(ア) 農村部の栄養摂取状況 (男女別栄養不足の発生、貧血、栄養欠乏症の有無)

(イ) 家庭での食糧の調達と管理 (誰が行っているのか)

(ウ) 家庭での食事に関連するタブーの有無とその内容

(エ) 家庭の健康管理の状況 (誰がどの様にして健康管理を行っているのか、医療費の管理は誰が実施しているのか、家庭薬品の購入と管理は誰が行っているのか)

④ 農村部の児童・学生の就学状況

(ア) 郡別学校の設置状況と男女別最大通学時間 (地区毎で、どれだけの学校が設置され、最大でどれだけの通学時間を要しているのかの確認、スクールマップがあれば更に良い。なお、学校のリスト (学校名、学校種別、所在地、電話番号、校長氏名、教員数、児童数、クラス数、教室数、トイレの有無など) を入手し、先方との共同作業で地図に書き込めることができれば代替できるが、時間を要するので、案件開始後に実施することを検討する。)

- (イ) 遠方に住居がある場合の男女別就学方法（通学できる距離に居住していない場合の就学方法、寄宿舎の設置の有無など）
- (ウ) 男女別教育費用の状況（学校に支払う費用、教材（教科書、制服、文具）購入費、奨学金制度の内容）
- (エ) 男女別カリキュラムで期待された時間割と実際に実施されている時間割の中身（どのような科目で、何時から何時まで学習することになっているか、また早朝教室、夜間学校の有無）
- (オ) 男女別学校給食の有無（給食の有無と、給食がある場合は、その負担方法（現金、現物支給など））
- (カ) 男女別主要教科だけでなく、保健、栄養、生活知識の指導の有無
- (キ) 学校への給水システム、トイレ設置状況（水道、トイレが設置されているか）
- (ク) 教育省の学校設置基準

⑤ 農村部の教員の配置状況

- (ア) 農村部の平均的な1学校あたりの教員の配置数とその年収（教育省規定の給与額と、もし差異があれば実支払額）
- (イ) 教員住宅の有無とその場合の家賃
- (ウ) 女性教員、女性校長の割合
- (エ) 平均的な教員の一日労働サイクルと年間労働サイクル（いつが休み、学校暦の入手）
- (オ) 託児システムの有無（教員向けと、小さい弟・妹を抱える児童向け）

⑥ 農村部の成人教育状況

- (ア) 男女別成人教育の有無とその内容、参加者（実施されている場合は、実施場所、時間帯、科目、指導者など）

4. チンボラソ県政府・郡政府

- ① 県の組織図とプロジェクトのカウンターパートとなる可能性のある部署の役割
- ② 県の部署別予算
- ③ 県の人材
 - (ア) 行政官、技官等職種別の男女別人員、配置情報

(イ) 本プロジェクトに配置される男女別人員

- ④ 県政府の農村向け資金
- ⑤ 県政府の農村部への普及体制（農業、保健分野等の普及の方法、人員、予算）
- ⑥ 県の農業農村開発計画
- ⑦ 全郡政府情報（郡政府予算、組織図、男女別人員、開発計画、実施中のプロジェクト情報等）

5. チンボラソ県の中央省庁出先機関の情報（農業省、環境省、教育省、保健省）

- ① 組織図と部署の役割
- ② 予算と人員
- ③ 活動内容
- ④ 農村部に係わる開発計画
- ⑤ これら機関の連携実績、無い場合は連携可能性

6. 本案件で協調の可能性があるその他の機関情報

- ① 協調の可能性がある NGO 情報、その事業内容
- ② チンボラソ県の農業農村開発分野で活動しているドナーの情報、その事業内容

以 上

チンボラソ県農村部貧困削減プログラム・プレフェーズ プロジェクト 事前調査 集落の状況・聞き取り結果

聞き取り調査結果（リオバンバ郡 Huacantus 集落、コルタ郡 El Lilio 集落、アラウシ郡 Azuay 地区）

農業、農村、生活分野

村の人口は約 300 名（Huacantus 集落）～600 名（El Lilio 集落）位で、地区になると 2,400 名位となる。Azuay 地区には学校があるが、Huacantus 集落には学校も保健センターもない。

ほとんどの男性が出稼ぎに出る。人によっては 1 年のうち、9 カ月も外に働きに行き、収穫時に戻ってくる（El Lilio 集落）。出稼ぎ先は、リオバンバやグアヤキル、アスアイ県、ピチンチャ県、チンボラソ県等の各地で、大工、荷物運び、工事労務者の仕事が多い。収入としては、大工などの場合、200US\$/週の収入になる。ただし、町は家賃も高い。お金に困っている場合を除いては、一般的には小学校卒業後働きに出る場合が多い。子供の学費稼ごのために、村から 2～3 カ月間は出稼ぎしなくてはならない。

農業収入については、ほとんどが自家消費で農業生産物から得られる収入は無い。また、家畜もほとんど売ることではなく、鶏を売るケースがある位である。そのためほぼ出稼ぎだけが収入源である。農作物は、ソラマメ、小麦、ジャガイモ、オカ、えんどう豆、オルカなど。一世帯当たりの土地は 0.5ha 前後である。

単位面積当たりの収穫量は、昔と比較すると 50%以上も減っている。その要因は、「①土壌浸食などによる地力の低下、②気象の問題、③優良種子の不足、④技術の不足」が挙げられる（El Lilio 集落）。農薬を使うことはない。理由としては、購入費用がないためである。種子はあるが、収量が少ない。村には技術が足りないが、村に技術者（政府の農業サービスを含む）が来たことはない。灌漑技術（噴霧灌漑含む）、農耕技術、農業管理技術、動物の質を向上する技術、肥料作り技術、土壌改良技術が必要である。灌漑が無いところは天水に頼っている。そのため雨季に播種する。タイミングが重要である。病虫害対策についてはほとんど必要ないか、何も講じていない。

豚、羊、牛、鶏、クイ^a等を飼っている。牛は農耕用、牛乳用である。クイは販売するが、その他を売るとはほとんどない。

^a クイ（学名：Galea musteloides、英名：Cuis）げっ歯目、テンジクネズミ科。モルモット（テンジクネズミ）の仲間ですが、前歯が黄色いのが特徴です。また、下あごに臭いを出す腺があります。臆病な性格なのですが、岩などの高い所が大好きです。昔からクイはアンデス山脈地方での重要なタンパク元として重宝されてきました。（出典：http://www.ax.sakura.ne.jp/~hy4477/link/zukan/sonota/0025cuis.htm、2009/6/10）

男性、女性とも畑作仕事を行っている。ただし、出稼ぎ世帯の場合は、女性の畑仕事が多くなる。女性は子供の世話、家事、畑仕事、家畜の世話、市場に行くことなど、すべてのことにかかわらなければならないため大変である。

村によっては、水源はあるが、生活用水が中心であり、農業灌漑用には使用するほど水量がなく、消費用、灌漑用の水が足りない。ただ、Azuay 地区では、灌漑システム（土水路網）があり、水路の水は、灌漑だけでなく生活用水としても使用されている。また、El Lilio 集落では、各戸に水道がいきわたっていた。上水の水源となっている流域の保全も住民グループによって行われている。水源からの水汲みは、子供と女性が行うことが多い。水汲みに行く回数は 1〜2 回/日である。雨が降ると道がだめになり、水汲みが大変になる。洗濯の場合は川まで降りていく。また、他の村ではミンガにより、灌漑水路を作った。ミンガは全員参加である。

農業資材購入については、村によってまちまちで、お金に余裕ができれば購入する村や、共同体で一括販売、一括購入といったことは行っておらず、ほとんど個人ベースでものを売り買いしている村もある。

農業技術で知りたいのは、①土壌保全技術、②適した農作物、③灌漑技術、④優良種子の導入などである。

クレジットについては、かなり稀で個人ベースで借りたことがある人もいる位である。クレジットのシステムが分からないケースや、ほとんどが返済が出来ないと考えているからである。また、保証人や担保が確保できないという問題もある。

いずれの村も、土壌劣化が起こっていると感じている。生産量は低下しており、その対策は何も講じていない。各家の周り、道路、土壌劣化している土地に植林を行っている。今後は、出来れば在来種を、耕作不能地などに植えたい（El Lilio 集落）。

<生活面>

収入の多くは、食料品購入（米、砂糖、塩、パン、バター、パスタ、コーヒー、マッチ、石鹼、ガス代、電気代など）、学費、保健のために使われる。ガスを使う家もあるが、薪の世帯もある。薪集めは重労働である。その他、洋服の購入に当てることもある。収入の一部を土地購入に充てることもある。

リオバンバ郡 Huacantus 集落では、町に出て働くものの場合、50US\$/週の収入があっても、学費、移動のための交通費などで 25US\$は支出しており、残りの 25US\$で日常の生活を行っている。最低でも都市（キトなど）で 3 カ月は出稼ぎに出ないと生活できない。食事用、学費などを考えると月 300US\$の収入は必要である。アラウシ郡 Azuay 地区では、出稼ぎで 1 週間 30US\$の収入、このうち生活用に 10US\$、残りを他（学費など）に使う。

食事は、村で作っている農作物が中心で、たまに町で野菜を購入するが、多くはない。各人の生活時間帯については下表のとおり。

表 アラウシ郡 Azuay 地区の生活時間帯調査

時間	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
成人男性	起床			お祈り、朝食	畑仕事、家畜の世話				昼食(抜くことも)		畑仕事、家畜の世話				晩食			就寝		
成人女性		起床	朝食作り	夫の手伝い(お昼はお弁当)									空いた時間(のときもある)		晩食の準備		晩食		就寝	
18歳の男子	起床		父の手伝い	朝食	父の手伝い(お昼はお弁当)											晩食		就寝		
18歳の女子	起床	兄弟の食事の準備	朝食	家畜の世話				昼食		動物の世話			晩食	TVを観て過ごす			就寝			

出典：現地聞き取り調査

学びたいことは洋裁やブラウス作り、織物、ポンチョづくり、保健の知識、看護の知識（Huacantus 集落）、女性の服作り技術、生地作りの知識、記憶力、料理、葉野菜栽培技術、農牧技術、床屋、電気、男性用服作り、大工、左官、機器メンテナンス技術（Azuay 地区）などである。

教育については、教師の数が不足している（Azuay 地区）。また、教師が時間を守らず、遅刻してくる。授業はケチュア語でなく、スペイン語で実施している（Azuay 地区。以下 Azuay 地区の記述）。足し算はできるが、引き算は難しい。計算できないことが問題である。両親が子供を就学させないことが問題である。入学金、教科書代無償である。以前は、小学校で 5US\$、中学校で 25US\$の入学金を徴収していた。家長委員会が月 1 回程度開いている。PTA みたいな、親と教師の会合もある。先生は協力的である。識字センターに行ったことがある人は数人であるが、この地区には 28 年前から学校があり、個人の意思でドロップアウトすることもあり、また、親の教育に対する意識の差も大きい。女性は家事があり、識字センターに行く時間を設けることは大変であり、女性が学ぶ時間がない。教育の問題としては、成人に対する教育が大きな問題である。

保健については、病気になった場合は、伝統的な治療が中心である（Huacantus 集落）。病気としては、寄生虫による病気、リュウマチ、風邪、肺炎、栄養失調、子供の栄養不良、子供の下痢が見られる（Azuay 地区。以下 Azuay 地区の記述）。薬として薬草を使う家もある。トイレがない。学校にもトイレはない。以前、保健サブセンターで相手にしてくれなかった。患者がたくさん居る。巡回医療チームが来たことはない。巡回訪問について（Huacantus 集落の近くのフローレス保健サブセンターからの情報では）、共同体が組織化されていないため、誰にコンタクトを取ればよいのか分からず、村に行っても誰も集まっていないことがあり、実施することが難しい。共同体の連携が足りない。診断、投薬について、今年の 6 月までは一部有料であったものが、保健省の下、今年から全て無料で実施している。

Azuay 地区では、何が栄養のある食事か、誰も教えてくれない。周辺には 6 名の産

婆さんがいるが、自宅で産婆さんなしで出産することがほとんどである。自宅出産する理由は、恥ずかしい、保健センターでの取り扱いが悪い、お金がかかるといった理由による。家族計画というものがあるのは知っているが、その具体的な内容は分からない。緊急時、救急患者が出た場合は、間に合わないかも知れない。

集落で必要なものとして挙げられたのは以下のとおりである。

（Huacantus 集落）

- 灌漑、飲料水用の水が必要
- 集落内に保健センターが必要
- 道路が必要（市場まで遠くていけない）
- 種子
- 技術支援
- 鍬などの農耕具
- 学校
- 65 歳以上の高齢者のための食事（1 人で生活している、十分な収入がないため、食事を取ることができない）

（El Lilio 集落）

（農業の問題）

- 技術支援がないため、営農上の情報と技術が不足していること
- 営農資金の不足
- 灌漑施設の不備
- 異常気象

（Azuay 地区）

- 農業生産性向上
- 灌漑施設
- 現金収入用の民芸品（雇用の確保、収入源確保）

以 上

現地調査 集落聞き取り調査：農業・環境・生活分野（その1）

1. 分野：農業・環境・生活分野（その1）

2. 調査員：永代成日出

集落名	チンボラソ県 リオバンバ郡 Huancantus 集落	チンボラソ県 コルタ郡 El Lilio 集落	チンボラソ県 アラウシ郡 Azuay 地区
聞き取り実施日	(2008 年 8 月 27 日実施)	(2008 年 8 月 28 日実施)	(2008 年 8 月 29 日実施)
集落情報	（村人口）25 家長（世帯と同義語？）、約 60 名（元は 300 名）、村当初は 20 家族であったので、当時よりは増加している。（*別の発言では、定住者が 40～60 名、出稼ぎ者が 20 名の計 80 名とも） （施設）保健センターなし、学校無し （学校）子供は村から徒歩 1 時間の小学校に通う。	120 家長、人口 600 人 4 つの地区からなる広大な集落である	450 家族、2,400 人 - リオバンバ市からのアクセスは悪い（3 時間程度掛かる）。
集落内の施設		各戸に上水道施設があり、その施設の維持管理費は各戸からの分担金で賄われている。	重力式の土水路網で灌漑を行っている
出稼ぎ	- ほとんどの男性が出稼ぎに出る。女性が残っている。 - リオバンバやグアヤキルに出稼ぎに出る者が多く、一部は既に定住している。 （出稼ぎ）男性は、農業生産できない乾季に出稼ぎに出て、大工、荷物運び、工事労働者として働いている。	- 現金収入はほとんど全部を出稼ぎに頼っている。 - ほとんどの男性は出稼ぎに出ており、人によっては一年の内、9 カ月も外に働きに行っている（収穫時に戻ってくる）	- ほとんどの男性が出稼ぎに出る。女性も出ることもある。12 才位から出稼ぎに出る場合もある - 出稼ぎの場合、（技術も持たない労働者として賃金は、20US\$/週位であるが、機械工、電気工、大工等の場合は、200US\$/週位稼げる。よって、技術も身につけたいという希望も持っている。
農業収入	（生産物）そのほとんどが自家消費（収入）農業生産物の余剰を売却する（農業販売）リオバンバに売りに行く。中間業者に売る。ジャガイモ、タマネギ 1 キンタール（約 50kg の袋）で、5US\$で売る。 （農業による年間収入）農業生産物は収穫した年一回売る。平均して 3 袋ぐ	<生産物>ほとんどが自家消費 <収入>生産物の数パーセントだけを販売 <販売>仲買人に売る。ジャガイモは 1 キンタール（約 50kg の袋）で、2 から 5US\$で売っていた。今は販売価格が上昇している。	<生産物>すべてが自家消費 <収入>ただし、年に一回程度、家畜を売って収入を得ている以外は、出稼ぎだけが現金収入源である。

	らいとなり、これで 30US\$ ぐらいの収入となる。従って、これが年間収入である。			
農村の農業以外の収入	• (収入) 出稼ぎによるものが主な収入源。 • (収入) 子供の学費稼ごのために、村から 2〜3 カ月間 (何回か分けて) は町に出て、収入を得なくてはやっけない。	• <収入> 出稼ぎが主な収入	• <収入> ほぼ出稼ぎだけが現金収入源。	
農業形態と現状	• (農作物) ソラマメ、エン麦、小麦、ジャガイモ、動物用飼料、オルカ、ユカ (キヤッサバ) • (生産地) 一世帯当たりおよそ 3,500 m² (=0.35ha) の土地。 • (農業) 灌漑施設は、まったくなし、天水のみ • (農業) 農薬を使うことはない。理由としては、購入費用がないためである。その結果として、有機農業を行っている。 • (農業) 病害虫対策は何も講じていない。発生したらそのままにする。 • (種) 天水に頼っているため、雨季に播種する。タイミングが重要である。 • (種) 種はいくつかの種類がある。 • (家畜) 家畜として、豚 (クリオージョ種)、羊、牛、ニワトリがある。牛は農耕用、牛乳用である。牛は家族によるが、1〜2 頭所有している。ニワトリは 2〜3 匹あり、卵も食べる。これら家畜を売ることはほとんどない。自家消費用に食べることもある。	• <農作物> 栽培している作物はソラマメ、ジャガイモ、大麦、エン麦、小麦、キヌアなどで、その内、主要な作物はジャガイモ、大麦、キヌアである。 • <収量> 単位面積当たりの収穫量は昔と比較すると 50% 以上も減っている。その要因は、「①土壌浸食などによる地力の低下、②気象の問題、③優良種子の不足、④技術の不足」ということが挙げられる。 • <農地面積> 代々の相続による分割で農地面積が小さくなった。 • <キヌア> キヌアを栽培したことはあるが、霜で全滅してしまった。 • <種子> 全ての作物の優良種子が不足している。 • <家畜> 豚、羊、牛などを飼っている。 • <クイの飼育> ほとんどの農家がクイの飼育を行っている。訪問した農家は、約 200 匹のクイの飼育をおこなっており、定期的に販売しているのととであった。	• <農作物> 栽培している作物は、小麦、キヌア、ジャガイモ、大麦、ソラマメ、エン麦などである。その内、主要な作物はジャガイモ、大麦、ソラマメである。 • <農地面積> 一戸当りの農地面積は、約 7,000 m² • <家畜> 羊、豚、牛、クイなどを飼っている。	

	• (キヌア) 収入が期待できるキヌアであるが、この村は標高が3,300mと高いので、キヌア栽培に適していない。*同行した農牧省の技師からの説明：組織化（農協含む）して販売する場合、70ドル/袋で購入してもらえらる。しかし、組織化せず個人で販売すると、それが10ドル/袋程度にしかならない。9月頃に播種して、5～6月頃に収穫となり、生産期間が長い。また、収穫しても、製品に適した品質を確保するのが難しいのではない。		
農村部の天然資源の活用方法	• (水) 水源があり、そこからパイプで水タンク（コンクリート造り）に集めている。今まで、水は枯れたことはない。各世帯がバケツで取りに来るが、この仕事は子供が担うことが多い。 • (水管理) 水管理は村住民で行っている。水委員会といったものはない。 • (水源) 水源はいくつかあるが、今現在、1つだけしか使用していない。他の水源は、隣の集落に取られてしまったことによる。 • (水の用途) 生活水が中心であり、農業灌漑用には使用していない（*水量が少なく、灌漑までまわすことは不可能な模様）。 • (水の重要性) 今まで灌漑に関しての支援はまったくなかった。生活の中で水はかなり重要であり、支援を期待している。せめて、各家庭に水が配水されるようになるだけでも、村の生活は	• (水) このコミュニティには各戸に水道が行き渡っている。上水の水源となっている流域の保全（植林など）も住民グループによって行われている。 • <灌漑>灌漑施設はないが、コミュニティ上流にある水源を使って灌漑したいという希望を持っている。	• (灌漑) このコミュニティには灌漑システム（土水路網）がある。水路の水は、灌漑だけではなく生活用水としても使用されている。

	向上すると思う。		
組織化状況	● 全員参加の「ミンガ」という組織がある。このミンガの共同作業で、水路や道路などのメンテナンスを行っている。	● 農業関係の組織はない。	● 全員参加の「ミンガ」という組織がある。このミンガの共同作業で、水路や道路などのメンテナンスを行っている。
農業資材の購入	●	●	● 農業資機材の購入は、共同ではなく、個人で行っている。 ● <種子>種子は時々購入する。 ● <苗木><肥料>時々、購入する・ ● <農業機械>農業機械は使わない。
農業資本の管理方法	● (クレジット) クレジットの経験はない。クレジットが有ることは知っているが、返済することはできないと考えているからである。村の収入は不定期で、年に数回しかないが、返済は毎月となり、手を出すことはできない。保証人や担保が確保できないと言う問題もある。	●	● (クレジット) 何人かはクレジットの経験がある。 ● クレジットは土地を担保にしなければならないので、手を出したくない。返済できるかも分からない。 ● クレジットのシステムも良く分からない。
農業の担い手	●	●	●
農家経営 (意思決定)	●	●	●
農家経済状況	●	●	●
環境、植林	● (植林) 木を植えている (ユーカーリなど)。苗床は村にはない。このための援助もない。 ● (どこに植える) もし苗木が配付されたら、家のそば、道路、土壌劣化している土地に植林したい。 ● (樹種) ユーカーリは既に植えている。ユーカーリは薪や建築用資材に使用できるが、水を多く使うため、もし植えるとしたら天然種 (在来種) を植えること	● (土壌劣化) 土壌浸食により地力が低下しているのは実感しているが、土壌保全法を知らないため、対策は何も講じていない。 ● (樹種) 本数は少ないが、ユーカーリが薪用に植えられている。 ● <植林> 今後は出来れば在来種を、耕作不能地などに植えたい。 ●	● (土壌劣化) 土壌浸食により地力が低下しているとの実感がうようであるが、対策は講じられていない。 ● <植林> もし苗木が配布されたら、農地の境界線などに防風林として植林したい。 ● <樹種> 植林をするならば、在来種を植えたい。

	とになる。どの樹種が良いのか、地元の人間は知っている。 （土壌劣化）実感として土壌劣化は生じている。生産量は低下しており、ただし、その対策は何も講じていない。 20 年前は出稼ぎがなかった。村で生活できた状況である。		
技術支援	（村への訪問者）村に来る者は誰もいない。ボランティアも来ない。 （何か問題が生じた場合）村で工事が必要な場合は、自分たちで町に出でいき、資材を購入して、工事を行う。この教会も自分たちで建設した。小さい故障は自分たちで解決する。ただし、大きな故障（電気など）は町に出て、修理を依頼することになる。 （技術支援）村に何の情報も来ない。 （農業サービス）政府の農業サービスを受けたことはない。 （必要な技術）農業技術で知りたいのは、「①スプリングラークレーン灌漑技術、③農業管理技術」などである。	- 今まで、外部からの技術指導を受けたことがない - 政府からの農業サービスも受けたことがない。 （必要な技術）農業技術で知りたいのは、「①土壌保全法、②適した農作物、③灌漑技術」などである。	- 外部からの農業に関する技術支援は受けたことがない。 （必要とする農業支援）農民が欲する農業支援は、「①スプリングラークレーン灌漑施設、②土壌肥沃度の増加、③優良種子の導入」などである。 - このコミュニティでは上流の流域からの水を使った灌漑が行われているが、土水路網による配水のため効率が悪く、スプリングラークレーン灌漑施設の導入でその効率を上げたいという希望を持っている。 - 地力の低下で農業生産性が低下しており、農民は土壌肥沃度の増加への技術支援を望んでいる - 優良種子の導入について、ある農民は土地に合った在来種が一番であり、外部からの種子の導入には慎重であるべきとの意見であった。 - 研修への要望＞女性、洋裁や野菜栽培などを学びたいという希望を持っている。 - 男性は、農牧技術、木工、機械、電気などを学びたいという希望を持っている。

生活	• (町にでる) リオバンバへは、近くのフローレス集落まで約 1 時間歩いて、そこからバスで行く。 • (日常の生活時間) 5 時頃起床し、8 時から 18 時まで畑仕事、20～21 時には就寝する。0600～0630 時に朝食、1200～1300 時昼食、2000～2100 時に晩食である。 • (仕事) 畑仕事は、男女ともに行う。仕事の準備は、女性が中心である。家畜の世話も女性が行うことも多い。*男性が出稼ぎであると、これらはすべて女性が担っている。 • (燃料) 薪がほとんどである。ごくまれにガスを使っている家もある。薪集めは、家族 (男、女、子供) が行う。近い場所から採取する。	• <燃料>燃料は、マキとガス。その使用割合は、半々ぐらい。 • <アクセス>リオバンバ市から車で約 50 分。幹線道路がコミュニティの直ぐ近くを通っているのので、病院や町へのアクセスは良い。 • 訪問した農家にはテレビもあり、コミュニティ全体が他のコミュニティより生活環境は良いと感じられた。	• <燃料>燃料はほとんどがマキ。一部でガスを使っている。その使用割合は、半々位。
支出	• (収入) 収入は、①食料品購入 (砂糖、塩、パン、バター、米、パスタが中心)、②教育、③保健のために使われることがほとんどである。その他、洋服の購入、電気代の支払いに充てることもある。収入があっても家畜を増やすことはない。収入の一部を土地購入に充てることもある。 • (支出) 町に出て働く者の場合、50US\$/週の収入があっても、学費、移動のための交通費などで 25US\$は支出しており、残りの 25US\$で日常の生活を行っている。最低でも都市 (キトなど) で 3 か月間は出稼ぎに出ないと生活できない。	• 教育、保健、食料品、衣類などに 120US\$/月/戸を支出する。 • 食料品などは日曜日に開く市場で買う • お金が足りないときは、家畜を売る	• <支出>米、塩、マッチ、石鹸、スパゲティ、砂糖、パンなどを購入する。

食生活	（食事）葉ものの野菜はここでは作っていない。たまに町で購入するが、多くはない。			
農業の問題		- 技術支援がないため、営農上の情報と技術が不足していること - 営農資金の不足（資機材が購入できない） - 灌漑施設の不備（年一作しかできない） - 異常気象	- 農業技術の不足 - 地力の低下 - 低い収量	

現地調査 集落聞き取り調査：農業・環境・生活分野（その2）

1. 分野：農業・環境・生活分野（その2）

2. 調査団員：野口伸一

集落名	チンボラソ県 リオバンバ郡 Huancantus 集落	チンボラソ県 アラウシ郡 Azuay 地区
聞き取り実施日	(2008 年 8 月 27 日実施)	(2008 年 8 月 29 日実施)
集落情報	（村人口）25 家長（世帯と同義語？）、約 60 名（元は 300 名）、村当初は 20 家族であったので、当時よりは増加している。（*別の発言では、定住者が 40～60 名、出稼ぎ者が 20 名の計 80 名とも）	（使用言語）村ではほとんどがスペイン語で会話できる。ケチュア語は聞けるが話せない。 （村人口）人口 2,400 名、約 850 世帯。
集落内の施設	（施設）保健センターなし、学校無し （学校）子供は村から徒歩 1 時間の小学校に通う。	（施設）学校がある
出稼ぎ	- ほとんどの男性が出稼ぎに出る。女性が残っている。 - リオバンバやグアヤキルに出稼ぎに出る者が多く、一部は既に定住している。 （出稼ぎ）男性は、農業生産できない乾季に出稼ぎに出て、大工、荷物運び、工事労働者として働いている。 - お金にかなり困っている場合を除いて、一般的には小学校（12～13 歳）卒業後に働きに出ることが多い。	- ほとんどが出稼ぎに出る。 - 季節出稼ぎ者も多く（2～3 カ月出稼ぎに出る） 3 週間働いて、戻ってくることもある。 - アスアイ県、ピチンチャ県、チンボラソ県への出稼ぎ - 大工、左官工、工事系の仕事が多い。 - 町に出かけて、大工などの場合、特別に 200US\$/週の収入になる。ただし、町は家賃も高い。 （出稼ぎ年齢）4 年生まで就学して、5 年生から出稼ぎに出ることもある。
農業収入	（収入）農業生産物の余剰を売却する （農業販売）リオバンバに売りに行く。中間業者に売る。ジャガイモ、タマネギ 1 キンタール（約 50kg の袋）で、5US\$で売る。 （農業による年間収入）農業生産物は収穫した年一回売る。平均して 3 袋位となり、これで 30US\$位の収入となる。したがって、これが年間収入である。 （ニワトリ）ニワトリを売る場合もある。	（農業販売）ほとんど農業生産物を売ることはない。 （家畜）牛、豚、羊を飼っているが、ほとんど自家消費用である。家畜を売ることがはほとんどない。売る場合は、2～3 年間肥育しなくてはならない。
農村の農業以外の収入	（収入）出稼ぎによるものが主な収入源。 （収入）子供の学費稼ごのために、村から 2～3 カ月間（何回か分けて）は町に出て、収入を得なくてはやっていけない。	（収入）農業収入がほとんどない。収入の唯一が出稼ぎである。
農業形態	（生産物）そのほとんどが自家消費	（生産物）そのほとんどが自家消費用である。

	• (農作物) ソラマメ、エン麦、小麦、ジャガイモ、動物用飼料、オムカ、ユカ (キャッサバ) • (生産地) 一世帯あたりおよそ 3,500 m² (=0.35ha) の土地。 • (農業) 灌漑施設は、まったくなし、天水のみ • (農業) 農薬を使うことはない。理由としては、購入費用がないためである。その結果として、有機農業を行っている。 • (農業) 病害虫対策は何も講じていない。発生したらそのままにする。 • (種) 天水に頼っているため、雨季に播種する。タイミングが重要である。 • (種) 種はいくつかの種類がある。 • (家畜) 家畜として、豚 (クリオージョ種)、羊、牛、ニワトリがある。牛は農耕用、牛乳用である。牛は家族によるが、1〜2 頭所有している。ニワトリは 2〜3 匹あり、卵も食べる。これら家畜を売るとはほとんどない。自家消費用に食べることもある。 • (キヌア) 収入が期待できるキヌアであるが、この村は標高が 3,300 m と高いので、キヌア栽培に適していない。*同行した農牧省の技師からの説明：組織化 (農協含む) して販売する場合、70US\$/袋で購入してもらえ。しかし、組織化せず個人で販売すると、それが 10US\$/袋程度にしかならない。9 月頃に播種して、5〜6 月頃に収穫となり、生産期間が長い。また、収穫しても、製品に適した品質を確保するのが難しいのではない。	• (農作物) ジャガイモ、大麦、そら豆、小麦、グリーンピース、オムカ、エンドウ豆など。 • (土地) 7,056 m²/家族 • (技術) 病害虫対策は、標高が高いのでほとんど必要ない。 • (技術) 種子はある。収穫したものを一部翌年の種に回す。しかし、自分達の種は、一年目の収穫は良いが、二年目以降は収穫が少ない。認証種子は使いたくない。 • 以前より、農業生産高は低下している。人口が増えており、結局、村では生活できず、出稼ぎに出る。
農村部の天然資源の活用方法	• (水) 水源があり、そこからパイプで水タンク (コンクリート造り) に集めている。今まで、水は枯れたことはない。各世帯がバケツで取りに来るが、この仕事は子供が担うことが多い。 • (水管理) 水管理は村住民で行っている。水委員会といったものはない。 • (水源) 水源はいくつかあるが、今現在、1 つだけしか使用していない。他の水源は、隣の集落に取られてしまったことによる。 • (水の用途) 生活水が中心であり、農業灌漑用には使用していない (*水量が少なく、灌漑までまわすことは不可能な模様)。 • (水の重要性) 今まで灌漑に関しての支援は、まったくなかった。	• (水資源) 飲料水専用の水はない。 • (水資源) 周りのたまり場から水を引いている。 • (水資源) 周りの集落 4 つで、ミンガにより、灌漑水路を造った。

	生活の中で水はかなり重要であり、支援を期待している。せめて、各家庭に水が配水されるようになるだけでも、村の生活は向上すると思う。 • (一番の問題) 消費用の水が足りない。灌漑用の水も足りない。水源は遠い。 • (水くみ) 場所によっては、水くみに 30 分以上かかる。水くみは主に女性の仕事。男性の助けはほとんどない。汲みに行く回数、1～2 回/日である。雨が降ると道がダメになり、水汲みが大変。 • (洗濯) 洗濯のために川まで下りていく。 • (女性組織) 女性組織はない。 • (問題) 何か問題が生じた場合は、共同体で助け合うことがある。	
組織化状況		• (ミンガ) 共同体として、ミンガがある。ミンガは全員参加である。 • (その他の組織) 共同体の委員会がある。郡政府や県政府と交渉を行う場合は、組織化されていなければならない。 • (購入) 共同体で一括販売、一括購入と言ったことは行っていない。全ては個人ベースでものを売り買っている。 • (購入物) 種子、苗木、(有機肥料が無い場合) 肥料、農耕具、家畜のための医薬品を購入する。家畜は年間一回ぐらい売り買っている。 • (購入しない物) 農業機械は買えない。
農業資材の購入		• (クレジット) クレジットの経験はない。クレジットが有ることは知っているが、返済することはできないと考えているからである。村の収入は不定期で、年に数回しかないが、返済は毎月となり、手を出すことはできない。保証人や担保が確保できないと言う問題もある。
農業資本の管理法		• (クレジット) クレジットの経験はない。クレジットが有ることは知っているが、返済することはできないと考えているからである。村の収入は不定期で、年に数回しかないが、返済は毎月となり、手を出すことはできない。保証人や担保が確保できないと言う問題もある。
農業の担い手		• (担い手) 男性、女性ともの畑作仕事を行っている。ただし、出稼ぎ世帯の場合は、女性の畑仕事が多くなる。 • (女性の大変さ) 女性は、子供の世話、家事、畑仕事、家畜の世話などすべてのことに係わらなければならないため大変である。 • (意思決定) 家族によって意思決定者は異なる。旦那が決定する、両親が決定する、夫婦で話し合って決めるなどである。
農家経営 (意思決定)		(未確認)
農家経済状況		(別項目で記述済み)
環境、植林		• (植林) 木を植えている (ユーカーリなど)。苗床は村にはない。このための援助もない。 • (天然樹種を植えることもある。外来種はダメ。防風林とな

	• (どこに植える) もし苗木が配付されたら、家のそば、道路、土壌劣化している土地に植林したい。 • (樹種) ユーカリは既に植えている。ユーカリは薪や建築用資材に使用できるが、水を多く使うため、もし植えるとしたら天然種(在来種)を植えることになる。どの樹種が良いのか、地元の間は知っている。 • (土壌劣化) 実感として土壌劣化は生じている。生産量は低下しており、ただし、その対策は何も講じていない。20年前は出稼ぎがなかった。村で生活できた状況である。	• (技術支援) 村には技術が足りない。「①灌漑技術、②動物の質を向上する技術、③肥料作り技術、④土壌改良技術」が必要である。 • (農業生産量) 以前より生産量は減った。どうして減っているか。知識不足の面もある。 • (灌漑) 灌漑を以前試みたいが、ダメだった。今までのすべての技術者は成功していない。 • (技術者) 村に技術者が来たことはない。 • (訪問者) 子供開発基金がNGO(ワールドビジョン)と一緒に来たことはある。女性が家長の場合、子供の面倒を見る保育園制度に關しての訪問であった。 • (欲しい技術) 女性の服作り技術、生地づくりの知識、記憶力、料理、葉野菜栽培技術、農牧技術、床屋、電気、男性用服づくり、大工、左官、機器メンテナンス技術など。	• (植林) 少し植林を行った。
技術支援	• (村への訪問者) 村に来る者は誰もいない。ボランティアも来ない。 • (何か問題が生じた場合) 村で工事が必要な場合は、自分たちで町に出ていき、資材を購入して、工事を行う。この教会も自分たちで建設した。小さい故障は自分たちで解決する。ただし、大きな故障(電気など)は町に出て、修理を依頼することになる。 • (技術支援) 村に何の情報も来ない。技術情報が必要である。 • (農業サービス) 政府の農業サービスを受けたことはない。 • (必要な技術) 農業技術で知りたいのは、「①噴霧灌漑、②農耕技術、③農業管理技術」などである。	• (女性) 仕事が多い。市場に行くこともある。多くの仕事は女性が行っている。 • (あく時間) 1日の内で、月曜日から金曜日の夕方16～18時に時間が空くことがある。 • (日常の生活時間、成人男性) 5～6時に起床(仕事がある場合、4時に起床)、お祈り、朝食を経て、畑仕事、家畜の世話を行う。お昼の時間は決まっていない、場合によっては、昼を抜く場合もある。午後畑仕事、動物の世話で、19～21時に晩飯を取る。その後は仕事は特にせず、22～23時に寝る。 • (日常の生活、成人女性) 0530～0600時に起床し、朝食作り、下	
生活	• (町にでる) リオバンバンへは、近くのプロローレス集落まで約1時間歩いて、そこからバスで行く。 • (買い物) 買い物に行く場合もあるが多くはない。 • (日常の生活時間) 5時頃起床し、8時から18時まで畑仕事、20～21時には就寝する。0600～0630時に朝食、1200～1300時昼食、2000～2100時に晩食である。 • (仕事) 畑仕事は、男女ともに行う。食事の準備は、女性が中心である。家畜の世話も女性が行うことも多い。*男性が出稼ぎであると、これらは全て女性が担っている。 • (燃料) 薪がほとんどである。ごくまれにガスを使っている家もある		

	る。薪集めは、家族（男、女、子供）が行う。近い場所から採取する。 （車）村には誰も車を持っている者はいない。 （補修）道路の補修をお願いしたい。トラクターなどの工事車両が必要である。	の兄弟の学校までの送り、夫の手伝いなどを行う。畑仕事がある場合は、お弁当を持っていく。お昼は12時前後にとる。夕飯の準備で18時には戻り、20～22時に晩飯を取る。 （日常生活、未成年18歳の男子）0530～0600時に起床し、父親の手伝いをする。9～10時に朝食、お昼は弁当であり、夕方に家に戻る。20～21時に晩飯、その後は友達に会うこともあり、TVを見て、22～23時には寝る。 （日常生活、未成年16歳の女子）4時に起床、自分の兄弟の食事の準備を行う。家畜の世話をし、12～13時に昼飯、その後、動物の世話をし、18時頃に晩飯、TVを見て過ごし、22時には寝る。 （自由になる時間の有無）昼食後の少しの時間がある（成人女性）。ずーと仕事をしているため、自由になる時間はない。農耕期は一日中、働いている。（成人男性）、休み時間はある（未成年女性）、12～13時は休んでいる（未成年男性）。
支出	（支出）収入の多くは、①食料品購入（砂糖、塩、パン、バター、米、パスタが中心）、②教育、③保健のために使われる。その他、洋服の購入、電気代の支払いに充てることもある。収入があっても家畜を増やすことはない。収入の一部を土地購入に充てることもある。 （支出）町に出て働く者の場合、50US\$週収入があっても、学費、移動のための交通費などで25US\$は支出しており、残りの25US\$で日常の生活を行っている。最低でも都市（キトなど）で3カ月間は出稼ぎに出ないと生活できない。 （支出）服を購入する（25US\$ぐらい）。中古はもたないので、新品を買う。 （支出）食食用、学費などを考えたと月300US\$の収入は必要。	（支出）出稼ぎで一週間30US\$の収入、このうち、生活用に10US\$、残りを他に使う（学業など） （支出）毎日の支出（米、コーヒー、ガス代、電気代など）と学費で使う。ガスを使う家もあるが、薪の世帯もある。しかし、薪集めは重労働。 （支出）米、砂糖、塩、マツチ、石鹸、パスタ、パンを購入する。
食生活	（食事）葉ものの野菜はここでは作っていない。たまに町で購入するが、多くはない。	村で作っている農作物が中心である。
学習したいこと	- 洋裁やブラウス作り、織物、ポンチョづくりなどを学んでみたい。 - 保健の知識や、看護の知識が欲しい。また怪我や病気の応急処置の仕方を知りたい。家族のためになる。	（集落で必要なことの項を参照）
教育	（学校）学校はフロレーンスまで歩いていくしかない。	（学校）近隣に6校ある。合計160人の児童がいる。

	• (子供の就学年) 教育が終わるまでは出稼ぎに出さない様にしていく。 • (子供の就学年) 自分の場合は高校まで行かせて、高校卒業したら直ぐに結婚して家を出た。 • (子供の就学) 夫が早く亡くなったので、小学校卒業後直ぐに働かせた (12 歳位)。	• (教師) 教師は、全部で 6 名である。教師は村に住まず、下のパロキアに住んでいる。6 人の教師では不足している。 • (教師の問題) 時間を守らない。遅刻してくる。 • (通学) 中学校までは 1 時間かかる。 • (使用言語) 授業はケチュア語ではなく、スペイン語で実施している (村もケチュア語よりもスペイン語を小さい頃から話しているため) • (授業時間) 0800~1230 が授業時間である。 • (算数の能力) 足し算はできるが、引き算は難しい。計算できないことが問題である。 • (市場での交渉) 市場に行って物を買うことはできるが、計算はダメ。 • (原因) 両親が子供を就学させないことが問題である。まったく計算ができない人もいる。 • (制服) 制服が無料となったとは聞いているが、...。まだ、もらっていない。 • (学費) 入学金無償、教科書代無償である。以前は、小学校で 5 US\$, 中学校で 25US\$ の入学金を徴収していた。 • (家長委員会) 家長委員会が月一回程度開いている。PTA みたいな、親と教師の会合もある。先生は協力的である。 • (識字センター) 識字センターに行ったことがある人は、数人である。 • (原因) この地区には 28 年前から学校がある。教育を受けられないという理由もあるが、個人の意志で、ドロップアウトすることもある。個人の意志の問題でもある。 • (原因) 親の教育に対する意識の差も大きい。 • (女性) 女性は家事があり、識字センターに行く時間を設けることは大変。女性が学ぶ時間がない。 • (教育の問題) 教育の問題としては、成人に対する教育が大きな問題である。 • (コンピューター) 政府から PC が供与された。しかし、教師の中で誰も使うことが出来ない。PC を指導する人を送って欲しい。
--	--	---

保健、医療	● (病気) 病気になる場合は、伝統的な治療が中心である。 ----- (この情報は、郡中心部であるフローレスのサブ保健センターからの情報である) ----- ● 23 のコミュニティを管轄している ● 各集落 2 カ月に一回程度の巡回訪問が最大である ● 共同体が組織化されていないため、巡回訪問を実施することが難しい。例えば、そもそも誰にコンタクトを取ればよいのか判らず、村に行っても誰も集まっていないこともある。また、巡回訪問を組織から依頼されれば、調整して、訪問することができ、組織化されていなので、そのような依頼がなされない。共同体の連携が足りない。 ● 診断、投薬について、今年の 6 月までは一部、有料であったものが、保健省の下、今年から全て無償で実施している。 ● 薬は足りない	● (病気) 寄生虫による病気がある。水の問題かもしれない。 ● (病気) 病気の原因は特定されていない。 ● (病気) リュウマチ、風邪、肺炎、栄養失調などがある。 ● (子供の栄養) 子供の栄養不良が見られる。農作物が不十分である。子供の下痢も多い。 ● (服) 今の服 (洋服) になって病気が増えた。昔ながらの伝統的な服の方が良い。 ● (トイレ) トイレはない。学校にもトイレはない。 ● (トイレ) トイレがないため、家から離れた場所で用を足している。家から離れて用を足すのは、家の近くだと衛生に問題があるから。 ● (薬) 家のある薬を使う。薬草を使う家もある。 ● (保健サブセンター) 以前、保健サブセンターで相手にしてくれなかった。子供が重症の際に、治療してくれなかった。 ● (保健サブセンター) 行っても相手にしてくれない。患者がたくさんいる。 ● (巡回医療チーム) 巡回医療チームが来たことはない。 ● (手を洗う) 食べる前に手を洗う習慣がある。 ● (シャワールーム) シャワールームは、2〜3 回/週である。 ● (栄養) 何が栄養のある食事か、誰も教えてくれない。 ● (病気の看病) 主に母親が看病する。薬は、男女両方が購入する。 ● (お産婆) 周辺には 6 名の産婆さんがいる。 ● (出産) 自宅で出産することはほとんどである。病院には行かない。はずかしい、取扱が悪い、お金がかかるといった理由による。 ● (出産方法) 家で立って出産する (伝統的)。夫が立ち会う。お産婆さんはいない。 ● (家族計画) 家族計画というものがあるのは知っているが、その具体的な内容は判らない。 ● (緊急) 救急患者が出た場合は、間に合わないかもしれない。ただし、携帯電話があるので、車を呼ぶことができるが、かなり支払わなくてはいけない。
集落で必要なもの	● 灌漑、飲料水用の水が必要 ● 集落内に保健センターが必要	● 農業生産性向上 ● 灌漑施設

	• 道路が必要（市場まで遠くて行けない） • 種子 • 技術支援 • 鍬などの農耕具 • 学校（一時間も通学にかかっている） • 65 歳以上の高齢者のための食事（一人で生活している、十分な収入がないため、食事を取ることができない）	• 現金収入用の民芸品（雇用の確保、収入源確保）
--	---	--

現地調査 集落聞き取り調査：教育分野

1. 分野： 教育分野
2. 調査員： 篠崎尚子

集落名	チンボラソ県 リオバンバ郡 Huancantus 集落 (2008 年 8 月 27 日実施)	チンボラソ県 コルタ郡 El Lirio 集落 (2008 年 8 月 28 日実施)	チンボラソ県 アラウシ郡 Azuay 地区 (2008 年 8 月 29 日実施)
聞き取り実施日			
児童の教育状況	- 基礎教育 7 学年 (初等教育) までで退学し、基礎教育課程を修了していない児童が多い。 ⇒大半が金銭的な理由による中退。 - 男児と比較すると女兒の基礎教育非修了率が高い。	- 基礎教育 7 学年 (初等教育) までで退学し、基礎教育課程を修了していない児童が多い。 ⇒金銭的な理由に加え、初等教育で基礎的な学習能力を身に付けられていないため、中等前期に進めない。(進んでも授業についていけずに中退してしまう) - 男児と比較すると女兒の基礎教育非修了率が高い。	- 基礎教育 7 学年 (初等教育) までで退学し、基礎教育課程を修了していない児童が多い。 ⇒大半が金銭的な理由による中退。 - 男女間の教育状況に大きな差はない。 ⇒ただし、世代があがると (=40 代以降の世代) 女子の基礎教育非修了率が高くなる。
学校の状況	(学校種別) スペイン語学校 (距離/通学時間) 最寄りの小学校まで徒歩 1 時間。 (児童数) 119 名 (教員数) 6 名 (教材) 教科書はあるが、ほとんど授業で使われていない。 (給食) 給食プログラムは実施されている。(※おやつ及び昼食)	(学校種別) 異文化間二言語教育学校 (距離/通学時間) 最寄りの小学校は徒歩で 5 分程。(但し、遠方からの児童の通学時間は最大で約 40～50 分) (児童数) 23 名 (教員数) 2 名 (教材) 教科書はあるが、ほとんど授業で使われていない。 (教育機材) PC があるが使用されていない。 (※PC は県政府からの寄贈機材) (給食) 給食プログラムは実施されている。(※おやつ及び昼食)	(学校種別) 異文化間二言語教育学校 (距離/通学時間) 通学時間は最大で約 40 分。 (児童数) 150 名 (教員数) 7 名 (教材) 教科書あり。授業で使用されている。 (教材) 地図や模型、掲示物等、教育教材が非常に充実している。 ⇒但し、授業に活用されている様子はない。 (教育機材) PC があるが使用されていない。 (施設) 教室が不足している。 (給食) 給食プログラムは実施されている。

			⇒教育省配布の食材もストックされている。 （幼児教育）基礎教育校に併設した施設で幼児教育（0～5歳児）をNGO等の協力で下実施している。
教職員にかかる現状	（職務態度）教員が時間通りに来ない。 （教授法）児童の学習理解度を無視した授業の進め方をしている。 ⇒教科書（教材）をほとんど使用せずに授業を行っており、教員自身の能力・知識のみに頼った教え方をしている。 （※教員が十分な教授能力・知識レベルを有しているかは大きな疑問）	（職務態度）教員が時間通りに来ず、休校も多い。 （職務態度）教員研修等に参加していない。 （児童への対応）児童に対する教員の対応が悪い。 ⇒先住民に対する差別・偏見に起因するような発言（例：「先住民の子供は）教育を受けても意味がない」、「覚えが悪いので教えたくない」等）が見られる。 （言語）異文化間二言語教育学校にもかかわらず教員はキチュア語がわからないため現地語を教えない（教えられない）。 （教員課程）教員養成校を卒業していない。 ⇒かつては中等前期卒業後すぐ教員として働く人が多く、十分な指導訓練・知識を持たぬまま現在も教員を続けている。	（職務態度）教員が時間通りに来ない。 （職務態度）教員研修等に参加していない。 （教授法）児童の学習理解度を無視した授業の進め方をしている。 ⇒カリキュラムや使用教材の問題とも関連。（特に算数の内容の難易度が高すぎ）
学校と父母（コミュニティ）の関係	（コミュニティの学校参画）ほとんどなし。 ⇒住民の多くが出稼ぎに出てしまっている、コミュニティ自体が機能しておらず学校への参画が困難。 ⇒スペイン語でのコミュニケーション能力の問題から、父母（特に母親）が教員とコンタクトを取ることが難しい。	（定期会合）1～2カ月に1回程度開催。 ⇒予算面にかかる話が会合の主な話題。 （父母会）会長は投票で選出。 ⇒ただし、会長のリーダーシップが低い。 （父母会）住民の多くが出稼ぎのため、コミュニティを離れていることが多いため、組織として機能していない。 （コミュニティの学校参画）ほとんどなし。	（コミュニティの学校参画）積極的にやっているといえる。 ⇒教室増設・改築を住民自らの手で行う等、学校運営に対して積極的に参画する意識がある。

	⇒父母側の、学校への参画意識が低い。(学校までの物理的距離が遠いことも一因?)	⇒学校側は、コミュニティーと積極的なかわりを持つ姿勢がなく、コミュニティー側も学校運営等に対する強い働きかけがない。	
学校へのニーズ	・(対・教員) 時間通りに来て、きちんと授業を行ってほしい。 ・(対・行政) コミュニティーの近くに学校が必要。	・(対・教員) 時間通りに来て、きちんと授業を行ってほしい。 ・(対・教員) 教員養成校を卒業し、然るべき資格を持った人が授業を行ってほしい。 ・(対・行政) 教室の天井が壊れている等、学習環境が劣悪であるため、教育インフラの整備を行ってほしい。	・(対・教員) PC にかかる研修を受講して、PCをもっと活用して欲しい。 ⇒児童だけでなく成人にも教えてほしい。 ・(対・行政) 教室を増設してほしい。
成人の教育状況	・(学歴) 男女問わず大半が初等教育中退で、基礎教育課程を修了している人は、ほとんどいない。(※年齢層：40～70 歳代) ・(教育傾向) 男性兄弟のみ学校に行くことができ、女性は家事手伝いを行うものという伝統的な思考が(現在も)ある。	・(学歴) 男女問わず、初等教育中退若しくは就学経験自体がまったくない。(※年齢層：30～70 歳代)	・(学歴) 男女問わず大半が初等教育修了。(※年齢層：30～60 歳代) ・(教育傾向) 20～30 年前は世代が男性兄弟のみ学校に行くことができ、女性は家事手伝いを行うものという伝統的な思考がある。
読み書き・計算・コミュニケーション能力	・女性ほぼ全員スペイン語でのコミュニケーションに難あり(＝聞く・話す共に困難)。男性(特に高齢者)も、多くがキチュア語しか話せない。 ⇒都市部に出たときにコミュニケーションが取れない。 ・男女問わず読み書き・計算にも問題あり。	・多くの女性がスペイン語でのコミュニケーションに難あり。(＝聞いて理解できても話すことができない) ⇒都市部に出たときにコミュニケーションが取れない。 ・男女問わず多くの人が「読み」は、ほとんど問題ないが「書き」に問題あり。 ・計算は、足し算・引き算はゆつくりであれば問題ない。掛け算・割り算はほとんどできない。	・ほぼ全員スペイン語でのコミュニケーションは問題なし。読み書きもほぼ問題ない。 ⇒都市部に出てもコミュニケーションにかかる困難はない。 ・計算力が弱い。(＝すばやく計算できない) ⇒市場等での売買時に難あり。
識字教育	・(参加経験) ごく少数が識字プログラムに参加したことがある。 ・(現在の識字教育実施状況) 行われていない。	・(参加経験) 男女問わず多くの成人が県審議会の識字プログラムに参加したことがある。 ・(通算学習期間) 平均1～2 年	・(参加経験) 男女問わず、何名か受講経験あり。 ・(現在の識字教育実施状況) 今年から県審議会の識字プログラムが実施される予定。

	⇒県審議会もしくは教育省の識字プログラム自体を知らない人が大半。	（現在の識字教育実施状況）行われている。 ⇒教育省の識字プログラム （授業日数）週3日（1回1時間程度） （過去の識字プログラム）生活に密着した内容を丁寧に教えていて、非常に役に立った。 ⇒現在のプログラムは、生活改善につながるどころか基礎的な読み書き・計算能力も身に付けられない。	（授業日数）週5日（月～金、1回1時間程度）
識字教育にかかる問題点	（※実施されていないため意見なし）	（指導員）授業を行う指導員がキチュア語のわからない人であるため、授業が理解できない。 （カリキュラム）母音のみしか教えず、まったく役に立たない。 ⇒識字教育受講経験者でも、自分の名前すら書けない人が多い。	（※これから実施のため現時点では特に意見なし）
識字教育／成人教育へのニーズ	（男性及び一部の女性）基礎的な読み書き・計算・コミュニケーション能力を身につけたい。 ⇒女性の中には、読み書き・計算・コミュニケーション能力を向上させたいという学習意欲（モチベーション）があまり見られず、生活改善に対する意欲もあまり見られない人が多い。	ただアルファベットを覚えるだけでなく、生活上身近な単語や文章を教えてくれるような授業を行ってほしい。 （女性）スペイン語でのコミュニケーション力を身に付けられるような内容の識字教育を行ってほしい。 （男性）農業にかかわる技術を身に付けたい。	市場や商店での金銭のやりとりに必要な計算能力を身に付けられるような教育を受けたい。 （女性）保健や縫製の知識・技術を身に付けたい。 （男性）農業・畜産にかかわる技術を身に付けたい。

現地調査 集落聞き取り調査：保健分野

1. 分野：保健分野
2. 調査員：花田 恭

集落名	チンボラソ県 リオバンバ郡 Huancantus 集落 (2008 年 8 月 27 日実施)	チンボラソ県 コルタ郡 El Lilio 集落 (2008 年 8 月 28 日実施)	チンボラソ県 アラウシ郡 Azuay 地区 (2008 年 8 月 29 日実施)
聞き取り実施日			
体格・服装	- 中高年は体格が小さい。 - 服装が劣っており、裸足の人もいる。	- 体格がよい人が多い。 - 服装がよい。	- 体格は比較的にいい。 - 服装は並である。
保健の問題	- 乳幼児の死亡 - 妊産婦の死亡 - 出稼ぎの者が性感染症 (STI) に罹って戻ってくる - 大人の貧血 - 貧血の者は鉄分をとるため土を食べる習慣 - 農作業で乳幼児の世話ができない - 水道、トイレがない、塩素剤もないので肝炎がある - 貧しい中でココロを買う - ヨード欠乏症はなくなった - 穀物がゆなど離乳食がある	- 幹線道路に面しており、排気ガスによる大気汚染 - 動物の死骸、ゴミの放棄 - 乳幼児の死亡 - 障害児	- 水道があったが管理が悪く使えなくなった。 - トイレがなく、寄生虫が多い。 - 低栄養 - 呼吸器疾患、肺炎 - アルコール中毒 - 中高年女性の独り暮らし - 乳幼児の死亡
保健施設・医療従事者に対する考え	- 保健サブセンターまで徒歩1時間から1時間半 - 病院で料金を請求されるので行けない - 保健ボランティアがいるといい	- 病院まで徒歩で1時間 - 病院まで車で10分、ヒッチハイクは困難なときが多い - 保健ポストがほしい - 助産師がほしい	- 医療施設に行くのははづかしい - 病院に薬がなければ、処方箋をもらって買わなければならない
リプロダクティブヘルス	- 若い人は家族計画を知っている - 伝統的産婆組合があり、伝統的産婆は保健サブセンターに認知されている - 郡で伝統的産婆は18人登録、全体では60人	- 家族計画は乳児の死亡につながるという誤った概念がある - 伝統的産婆はいない - 家族近隣の人が介助するか、独りで出産する	- 伝統的産婆は6人いる - マチズムから男性は家族計画に協力していない - 家族計画を知っているかの質問に女性に答えさせない
伝統医薬	- 薬草を使っている - セババ保健サブセンターに伝統医薬診	自然療法を知っている人が少なくなかった	子供が病気になる時、薬草で済ませたことがある

	察室を建設中、健康教育室に薬草の標本展示 • 伝統的治療師がいて、薬草を使ったり、マッサージしたりする • 伝統的産婆がレモン汁などの伝統的避妊法を教える	• カハバンバ病院に伝統医薬診察室を建設中	• アチュバジャ保健サブセンターが12年前にできた • TBのDOTS¹がよく実施されている • 馬で5時間のコミュニティを訪問している • 助産師が一般の診察をしている • 胎児心音を聞く携帯ドプラがある • が、巡回診療の時は他に持っていく機材が多く、持っていない • 近くで市場がある日に患者が多く来る • テイクサン保健サブセンターは1979年に設置され、建物が古いので雨漏りがあるなど、改修が必要 • 家族計画の受診者は多く、その90%は先住民である • アラウシン病院産科は、産科医が1名、助産師が1名 • 月35件程度の出産がある • 超音波装置がある • 新築の病棟がある • 垂直分娩室を建設中である • 医療従事者数が少なく、リオバンバ病院に転送することがある
医療施設・設備	セバダ保健サブセンターに垂直出産室を建設中 • 医師1名、助産師が1名いる • 保健省が無線機を、各コミュニティ、サブセンター、病院、救急車に配布したが、中継アンテナの建設が必要(3,800US\$) • エキボ・バシコで巡回診療を今年から開始した、70%が巡回、30%が施設、車両は給与から出している • 妊産婦死亡率は出生10万対400と全国平均の5倍	• カハバンバ病院に産婦人科があり、垂直出産施設を建設中 • 出産は年120件、産科医1、助産師1なので、夜間はリオバンバ病院に転送する • 農民保険診療所があるが加入者は150世帯しかない • 施設は広いが、機材が不足している • 保険料は1か月、世帯で1.13\$ • 週日は准看護師、週2日医師が来る。	

¹ TBは「tuberculosis（結核）」の略、DOTSは「Directly Observed Treatment」の略

保健省等聞き取り調査：保健分野

8月25日 保健省でのヒアリング 11:30~12:45

Dra. Carmen Laspina Arellano 保健総局長

Ing. Gustavo Gilez

- 治療体制については、本年度から 2010 年度にかけて、国立病院、軍病院、警察病院、社会保険病院を保健省の管轄化に置くようにする。また、民間病院の監督を保健省がするようになる。
- 微量栄養素について、ヨード塩の普及活動は 30 年前から実施しており、市販の塩はヨード塩のみに規制している。鉄分、ビタミン A の補給活動は広く実施されている。乳幼児の低身長を予防するため、亜鉛の補給を実施する計画である。
- 点滴は病院でないと受けられない。陣痛促進剤の点滴も病院で医師が行う。
- EU の協力で、チンボラソ県と他 2 県で、保健・水・教育の総合的プロジェクトを実施している。
- Equipo Basico は、医師、看護師、助産師、推進員のチームで、一次医療を地域別に担当する。チームと comunidad で約束書にサインして実施される。
- 1988 年以降、57 保健施設で、5 歳未満、妊産婦を無料にしたが、徹底されなかった。1998 年に法改正し、石油基金を原資に無料の施設を順次増加させたが、原資がなくなってきた。救急は大統領令で無料にしている。
- 医師・看護師の勤務時間は 4 時間だったが、8 時間にした。
- 助産師は大学 5 年の課程である。医師は 7 年課程なので、医師に比べ、ニーズは大きい。助産師になり手が少ない。公的セクターで診療所を開設できるのは、医師、歯科医師、心理士、助産師である。僻地で働く医師が少ないので助産師を派遣している。
- 予防接種は保健施設でいつでも受けられる。接種率が低い地域はキャンペーンを実施し、戸別訪問して実施する。接種率は高い。1990 以降、ポリオは発生していない。HPV（子宮頸がんの原因のビールス）の予防接種を検討している。
- 統計書の医師の専門科に産科医がないのは単なる誤りであろう。
- 伝統的産婆には登録制度はない。
- 伝統医療は社会的に認知されているので、保健省では補完的支援政策を取っている。
- 垂直出産を正式に認めて医療施設に部屋を設けている。楽に出産できる、会陰切開の必要な場合が少なくなる。

8 月 26 日 チンボラソ県庁での説明会

- 識字教育での保健の教科書は難しすぎる。家族計画、母乳保育、栄養の基礎、保健所や病院での診察の受け方など、実用的な基礎的な内容にすべきである。
- Dr. Wilson Nina 県保健局長の説明では、EU の協力により郡別に保健計画が策定された。低栄養対策がメインテーマである。統合ケアモデルを推進する。ライフサイクルにあわせたケアを実施する。県の保健の予算について、今年度は昨年度を維持した。救急車、車両、オートバイ等を購入する。保健医療施設の改修を実施する。医薬品を無料で投与する。5 種類の手術を無料で実施する。

8 月 27 日 Comunidad C への車中でのヒアリング

Dra.Maria Pagazo, Cordinadora de Salud, Provincia

Dra.Sandra Campos, Salud Provincial

- 農薬散布で防護していないので、中毒が多い。農薬の準備も料理も一緒の場所ですので、家族も農薬中毒になる。
- 全コミュニティ、医療施設、救急車に保健省が無線機を配備したが、アンテナが必要である。約 4,000US\$である。
- リファーマル・カウンターリファーマルの強化が必要である。
- ペストが発生した。動物と生活しているからである。生活改善の指導をしている。
- EU の協力で、煙が排出され部屋も暖まるかまどの改良、太陽熱温水装置、肥料化トイレ、台所の水のフィルター浄化の 4 つの住居改善をしている。1 軒 400US\$である。
- Equip Basico では年間勤務日の 30%が施設勤務、70%がコミュニティ訪問である。

以上

議 事 録 (1)

日付	2008年8月26日 PM2:00~5:40
場所	チンボラソ県議会会議室
面談者 及び 出席者	Sr. Carlos Moleno/県知事補佐官他チンボラソ県議会から課長及び担当 5~6名、教育省、保健省、環境省、農牧漁業省、INIAP、INCCA の国あるいは地域代表各数名ずつ、調査団、JICA エクアドル駐在員、Sr. Santiago/JICA エクアドル駐在員事務所
内容	
<本プロジェクトの経緯の説明> ・(調査団) 2007年に行った基礎調査時自然資源の劣化、低い農業生産—低い収入、教育の不足、医療サービスの不足があることが分かった。また問題分析の結果低い収入、生活条件の低さが貧困を及ぼしていることが分かり、総合農村開発を目指す本プロジェクト案が考えられた。 <プロジェクトの目標> ・(チンボラソ県) 開発には長い時間がかかると考えられるが、どうするのか？ ・(調査団) 本プロジェクトの目標はモデルを設立し実施することである。 ・(環境省) 環境もプロジェクトの上位目標に入るのか？ ・(調査団) そうである。 <計画されるだけで実施されないという危惧> ・(チンボラソ県) 参加型農村開発に係る多くの経験/調査が今までなされてきているが、実施されないできている。本案件も期待されるだけで実施されないのではないか？ ・(調査団) 本案件は実施スケジュールに見るように、パイロットプロジェクトの実施期間も持っている。既に考えられているプロジェクトは、より早く、実施しようと思う。また、持続性を確保するために、下から上の方法(参加型)をとることを考えている。本プロジェクトは、セクター別ではなく、総合農村開発をすることを目指している。本プロジェクトの前半2年は、計画策定期であり、その後5年間は実施期間である。 <含まれるセクター> ・(環境省) 本プロジェクトの策定に当たって、セクター等の条件はあるのか？ ・(調査団) ニーズ次第で何でも良い。 <投入について> ・(環境省) 環境省からはどのような投入が必要か？JICA から指示を受けるのか？ ・(調査団) 一緒の位置にいる。JICA のプロジェクトは、いずれも JICA とカウンターパートがともに作るプロジェクトである。 ・(チンボラソ県) プロジェクトには投資が必要であるが、日本国側が供給するのか？ ・(調査団) 本プロジェクトは、戦略策定、活動実施計画策定、ミニプロジェクトの実施であり、後者については日本国側、エクアドル国側、他ドナー、チンボラソ県の投入が予定される。 ・(環境省) 日本国側の予算は確定されているのか？ ・(調査団) M/M (ミニッツ) 署名の後決定する。	

<プロジェクトの名称について>

- ・（農牧漁業省）これはプログラムではないか？
- ・（調査団）プロジェクトの名称については、9月1日に議論する予定である。

<共同体の選定について>

- ・（INIAP）本プロジェクトでは、対象共同体の選定が最も重要であるため、選定の基準が必要であり、持続性や投入が必要となる。それをどう考えるか？
- ・（調査団）共同体の選定は、9月1日だけでは不十分であり、選定基準の設定のみを話し合う。

<組織間調整について>

- ・（保健省）組織間調整はどうするのか？既存の組織を含めて考慮してほしい。技術面、資金面の確保のための組織を設立してほしい。
- ・（調査団）了解である。調整は運営委員会が行う。

<カウンターパートに郡の代表者を含めることについて>

- ・（環境省）カウンターパートが重要だと思われるが、運営委員会に郡の代表者も含める必要があると思われる。
- ・（調査団）検討する。

<カウンターパート側予算について>

- ・活動計画実施の段階で、どの予算が使えるのか検討してほしい。
- ・（チンボラソ県）県レベルだけか？省レベルか？
- ・（調査団）どちらもである。
- ・（環境省）その点に関しては、SENPLADES(計画書記局)のHPにプロジェクト予算として400万US\$と出ている。
- ・（調査団）チンボラソ県のための予算が知りたい。
- ・（チンボラソ県）既に検討している。
- ・（調査団）どの分野の予算が使えるのか具体的に知りたい。
- ・（チンボラソ県）省庁の予算でチンボラソ県の予算を準備することができる。

<ミニッツの署名者>

- ・（調査団）9月1日までに各省庁にM/M（ミニッツ）の署名者を決めてもらう。
- ・その後、各省庁とINIAP、INCCAから手短に各セクター（組織）政策の紹介があった。

議 事 録（2）

日付	2008年8月27日 AM11:00~14:30
場所	Cebada市（グアモテ郡）保健支局
面談者 及び 出席者	Dra. Sandra Campos/保健省チンボラソ県事務所、Dra. Maria Pagalo/チンボラソ県議会保健プログラム担当、Dr. Jovanny/Cebada市保健支局長、Sra. María Luisa/Cebada市（グアモテ郡）産婆組合長、Sra. Muncho Muncho Rosa/Cebada市産婆組合副長、花田調査団員、山内調査団員
内容	

＜Cebada 市概要＞

- ・ Cebada 市（グアモテ郡）の人口は 8,000 人、その 95%は先住民族である。Cebada 市は 25 の共同体により成り立っており、保健支局は 3 つのエリア（エリア 1 = 8 共同体、エリア 2 = 8 共同体、エリア 3 = 9 共同体）を持つ。

＜産婆の状況＞

- ・ (Sra. Luisa) 産婆は家で出産介助している。郡に組合に登録している産婆は 18 人おり、全体では 60 人いる。産婆は共同体に 1 人おり、あらかじめ出産予定リストが回っているので、家で介助することに基本的には問題がない。しかし、困難な出産の時には遠方から携帯電話で呼び出されるか、家族が知らせにきて対応することもある。24 時間いつでも対応している。産婆に対する訓練が必要で、そのための教材が必要である。また、妊婦検診などのための機材が必要である。

＜出産に関して＞

- ・ (花田団員) 緊急の時はどのように対応するのか？
- ・ (Sra. Luisa) 1 台救急車があるので、それに対応する。
- ・ (山内団員) なぜ家で出産するのか？
- ・ (Dra. Campos) 文化的信条である。

＜保健センターとのアクセス＞

- ・ (花田団員) 一番遠い村はここからどの位離れているか？
- ・ (Sra. Luisa) 1 時間～1 時間半である。
- ・ (Dra. Campos) 保健省が無線を配布してくれたが、中継器が無いので、使えない。資金面の支援（40 万 US\$位）がほしい。

＜伝統的医師の存在＞

- ・ (Sra. Luisa) 産婆のほかに、伝統的医師（Naturista）がいて、薬草を使ったり、患部をマッサージしたり、他の病気に対応している。

＜保健支局の建設＞

- ・ 保健支局を見学した。現在 NGO の支援で伝統的医師が診療する建物と出産を待つ人のための建物を建築中である。また、ヨーロッパ連合（EU）の支援で、出産部屋を持つ建物をこれから建築予定である。

＜EU の支援＞

- ・ (Dra. Campos) EU の支援（2005～2008 年）でインフラの整備、地方のイニシアティブのくみ上げ、共同体リーダーへの訓練を行った。今後も特に薬草についての本の編集や印刷への支援や、産婆への訓練の支援が必要である。

＜家族計画について＞

- ・ (花田団員) 出産後家族計画もしているのか？
- ・ (Sra. Luisa) 先祖代々の方法（レモン汁を落とすなど）で行っている。NGO のプログラム（PASE）がそれを文書化している。

＜栄養不良について＞

- ・ (Sra. Luisa) この市では栄養不足による栄養不良が多い。食物があるのに、栄養不良になるということは、女性に対する啓蒙のための訓練が必要である。

<出産介助の報酬について>

- ・（花田団員）産婆は出産介助の報酬をもらっているのか？
- ・（Sra. Luisa）保健省からももらわないし、妊婦の家からもたまたま食事が出される程度である。ボランティアで行っている。

<飲料水について>

- ・（花田団員）この村には水はあるのか？
- ・（Sra. Luisa）水道水（飲料水）が来ている。

<保健市委員会の強化について>

- ・（Dra. Pegalo）保健市委員会の強化（訓練）が必要である。保健市委員会では、伝統的医療やリプロダクティブヘルス等、さまざまなテーマについて話し合い（対処方法等）を行っている。

<巡回チームの活動について>

- ・（Dra. Campos）保健省は省予算の5%を出して今年初めから巡回チームの制度を取り入れ、巡回診療を行っている。彼らは保健省と契約をしている。これは保健法により定められている。彼らは予防接種、疾病診断、栄養指導等を行っている。
- ・（花田団員）彼らが巡回する時の輸送手段はどのようにするのか？
- ・（Dra. Campos）自分の給料から車両借り上げを契約して巡回している。大体月に2～4回巡回に出る。月の70%が巡回に出て、30%保健所にいる。保健所と巡回チームの間でどこにいくか調整を行っている。

<多文化社会における保健のあり方>

- ・（Dra. Campos）この村が典型的であるが、チンボラソ県の農村は昔から多文化であることが特徴的であり、それを踏まえた保健サービスの提供が必要である。

<保健支局のサービスについて>

- ・（Dr. Geovanny）この保健支局では、一次医療を行っている。モデルとしては、伝統的医療とその代替医療、また、2つの保健システム（西洋医療とアンデス伝統医療）を取り扱っている。このCebada市の問題は、高い妊産婦死亡率である。100,000 出生児当り400人が死亡する率となっている。国レベルは80人である。この村には産婆組合があり、出産を介助している。教育とラジオ中継器（3,800US\$）、輸送車両が必要である。また、この市は慢性的栄養不良が80%、総合栄養不良が35%である。それに対する対策として伝統的作物（キヌア、とうもろこし、レンズマメ、大麦等）の強化、食物の作り方の教育等を行っている。

議 事 録 (3)

日付	2008年9月4日 PM4:20~5:20
場所	チンボラソ県リオバンバ郡政府郡長室
面談者 及び 出席者	Dr. Ángel Yanez Cabrera/チンボラソ県リオバンバ郡長、Ing. Patricio Salvador/リオバンバ飲料水下水市企業（EMPARE）総裁、Dr. Nelson Poveda S. /リオバンバ郡政府衛生部長、Fredy Losa G./CRECER 総裁、Ing.Fernando Caceres/リオバンバ郡公共事業部長、Ing.Carlos Alvear/リオバンバ郡政府プロジェクト、協定、経済開発部長、Andrea/チンボラソ県政府マクロプロジェクト部長、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
＜郡政府の状況＞ ・ 今日集まっていない部は他に、資金部、都市計画・住宅計画、社会計画、法的アドバイザーがある。郡政府には職員が 300 人程度、契約職員を含めると 600 人程度、そのほかにプロジェクト毎に契約している。また、パロキアレベルで農村開発計画を立てている。司法、警察機能は別の場所にある。郡政府は拡大傾向にある。 ＜郡の状況＞ ・ 県の経済活動の 60%がリオバンバ郡にある。農村部に 11 のパロキア、都市部に 5 つのパロキアがある。最貧困地域は Cacha と Flores であり、農民の土地所有面積が縮小しており、出稼ぎが多い地域である。（市長によると）彼らは不法な商業活動をしている。都市部の流通システムに問題を起こしているため、商業活動について法的なシステムを考えている。 ・ 農村人口が減少して都市人口が増加している。また、都市面積も増えている。 ＜農民の事業活動＞ ・ 民芸品や乳製品、肉加工、ハム類等あちこちで事業を行っている。しかし、予算が十分にならないため、活動が限られている。カントンレベルで事業のコンクールを行っている。今年は農牧、企業経営、観光、製菓等が出展され、アマラントスの製菓が優勝した。しかし、それを商業化するのは難しい。郡が優勝したグループに対しては、経済的支援、マーケティング、PC をあげたりしている。ほとんどが大学がプロジェクトアイディアを出しているが、最近はその下（共同体）レベルが参加できるようになってきている。 ＜連携活動グループの活動＞ ・ 1 グループ 15 人前後で構成される連携活動グループが 37 個あり、事業を行っている。メンバーは組織、団体が多い。BNF（国立拓殖銀行）からクレジットを借りており、グループ全体が保証人になっているため、土地の登記簿の必要はない。活動内容によって返済条件が変更される。小規模で 1,200～5,000US\$の融資である。 ＜共同体観光活動＞ ・ CRECER で共同体観光活動を 6～7 年前から行っており、活動は定着している。現在 6～7 つの商品（ツアー）がある。リオバンバは文化、歴史的に魅力があり、景色もきれいで需要がある。	

議 事 録 (4)

日付	2008年9月5日 AM8:20~9:10
場所	チンボラソ県政府会議室
面談者 及び 出席者	Sr. Carlos Morales/チンボラソ県政府、Andrea/チンボラソ県政府マクロプロジェクト部長、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
・ チンボラソ郡は異なる政治的傾向で構成されている。クリカマ知事はキリスト教民主党系のパチャクテという政党で、それに対してコルタ郡長、グアモテ郡長は Amauta というモルモン教系の政党である。現在知事、郡長選挙を来年 2 月に控え、各政党、候補者とも選挙に向けて活動を行っており、政治的に緊張状態にある。そのため、現在本案件に関し、クリカマ知事と異なる政党のコルタ郡長、グアモテ郡長を訪問するのは、情勢的に難しい。選挙後にはその状態も和らぐものと思われる。 ・ チンボラソ県には 45 の地区評議会 (Juntas parroquiales) があり、グアモテ郡の農村部の地区評議会は 2 つ、Palmira, Cebada がある。また、コルタ郡には 5 つ、Santiago de Quito, Juan de Verazco, Cañi, Corumbe, Cicalpa がある。リオバンバ郡には 10 の農村部評議会があり、Kacha, San Luis, Punia, Likto, Quiniac, Flores, San Juan, Calpi, Lican, Qubijiez がある。これらは地区の情報を持っており、政治的色も無いので、コルタ郡、グアモテ郡についてはこれらを訪問することは可能である。また、リオバンバ郡については県政府によって支援された地区開発計画がある。県開発計画については、9 県会議員が 7 つの政党に分かれていたため、承認することができなかった。 ・ チンボラソ県政府の郡に対する予算配分は下記の要領で行っている。1. 公平性 (30 万 US\$ ずつ)、2. 土地面積、3. 人口、4. ベーシックニーズ不満足度を基準にして配分している。来年 1 月には 2009 年度の計画を郡長とともに決定しなければならない。 ・ 9 月に国民投票予定の新憲法案では、郡政府の開発計画、予算を一括して県政府の開発計画、予算を立てる。またその際、チンボラソ県の参加型予算策定手法を採用することとなっている。 ・ 来週火曜日までにコルタ郡、グアモテ郡の 4 つの共同体を選定する。	

議 事 録 (5)

日付	2008年9月5日 AM11:00~12:30
場所	Sarachupa(グアモテ郡)集会所
面談者 及び 出席者	Sarachupa 共同体の若者男女 4 名ずつ、Charito/グアモテ郡社会開発担当者、Ana María/チンボラソ州政府、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
●（女性グループ—14 歳、18 歳、24 歳、33 歳の女性） ＜性病・避妊について＞ 知らない。お母さんも教えてくれないし、研修の機会もないので情報がないので、知りたい。 ＜初経教育について＞ なぜ生理がくるのかお母さんは教えてくれなかった。研修の機会があったら知りたい。 ＜家族計画について＞ 聞いたことはあるが、詳しくは知らない。お母さんは教えてくれない。研修の機会があったら知りたい。 ＜Casa Materna について＞ （お母さんたちの）お産は家で産婆によって行われている。たまに産婦が死ぬことがあった。家でお産をすることを好む。なぜなら病院ではわれわれをよく取り扱わないし、良い配慮もしてくれない。これに対し、家では家族や知人によりよく保護されながら産むことができる。しかしもし、Casa Materna でその対応が良く変わるなら、多分そちらで産むことを好むかも知れない。 ＜なぜ病院で出産しないか？＞ ① 先住民族女性に対しての悪い対応、 ② 資金面での問題（病院での出産にはお金が必要）、 ③ 良い道路、車両がない。 または車両を借りるお金が払えない。（緊急の場合、グアモテ郡都（車で 1 時間位）まで行かなければならない）そのようなお金を払うことは夫が許してくれない。 ＜共同体で妊婦を運ぶようなシステムにするなどできないか？＞ できればよい。 ＜共同体保健員になる気があるか？＞ 1 名興味がある。 ＜出産施設は？＞ グアモテ（郡都）にあるが、満足な対応は受けられない。もしそこで対応できない場合はリオバンバに行く。 ＜助産師はいるか？＞ いない。	

●（男性グループー15 歳、24 歳、26 歳、34 歳の男性。うち 1 名結婚している）

＜性病、避妊について＞

よく知らない。お父さんは教えてくれなかった。中学校では教えてくれたが、そのときは関係なかったので、よく覚えていない。

＜家族計画について＞

聞いたことはある。女性の T コブラ、結さつ（300US\$）の方法は知っている。家族計画はしたいと思う。中学校で教えてくれた。しかし、よく覚えていないので、研修の機会があったら受けたい。（結婚している男性）家族計画はしている。

＜お産について＞

お産は家で共同体保健員によって行われる。共同体に 2 人の共同体保健員がいる。お産には男性は立ち会うことはできない。

＜Casa Materna について＞

もし Casa Materna のような施設で家族が立ち会うことができるのであれば、そちらの方を好む。

＜Centro de Salud について＞

存在するが、何もない。

議 事 録 (6)

日付	2008年9月5日 PM1:30~2:30
場所	San Miguel de Pumachaca 保健センター (Puesto de Salud)
面談者 及び 出席者	Dra. Janneth Amaguaya Ramos/医師、Sr. Octavio Manatoma Marcatoueca/准看護師、 Manuel Youhaz, Noquilena/共同体リーダー、Charito/グアモテ郡社会開発担当者、 Ana María/チンボラソ州政府、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
＜本保健センターの概要＞ 本保健センターは、周辺 4 共同体（Sarachupa 含む）1 万 2 千 440 人をカバーしている。准看護師は 5 年間本センターに勤めている。医師は FASEBASE という NGO により 12 月までの契約である。医師と准看護師の 2 人で対応している。基本的には一日 8 時間勤務であるが、土、日午後も診察し、24 時間必要とあれば対応する。しかし、移動手段は保健省から支給されている 9 年越しのバイク 1 台のみあるだけで、それも壊れがちで、その際は 2~3 時間歩かなければならない。 ＜EBAS について＞ ここでは EBAS はないようである（Puesto de salud レベルであるため）。その代わり、准看護師が月に一度巡回診療を行っているが、交通手段に限りがあるため、そのサービスの質はあまり高くない。 ＜保健教育について＞ 家族計画やはしか、栄養等についての共同体に対する保健教育を行っている。 ＜薬について＞ 産科についての無料の薬、一般医薬品の無料の薬があり、足りなくなったら保健地区センター（Area de salud）により補給してもらう。 ＜お産について＞ お産は行っていない（産科の部屋は物置になっている）。緊急の場合は病院に妊産婦を送る。 ＜Casa Materna について＞ もしそのようなスペースがあれば、建設したい。 ＜病気について＞ 呼吸器系の病気、下痢、寄生虫系の病気が主なものである。また、軽い栄養不良も多い。 ＜センター運営上の問題について＞ センターが小さいこと、移動手段の不足、医薬品・医療技術者（歯科等）の不足である。	

議 事 録 (7)

日付	2008年9月5日 PM4:20～4:50
場所	チンボラソ県政府（CPCH）事務所
面談者 及び 出席者	Cristina Cucurí /CEDIS（社会開発普及センター）、Ana María/チンボラソ県政府、 山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
<CEDIS について> 女性の権利について 450 の女性組織を支援している。 <PRODER について> 経済社会包括省（MIES）が行った PROLOCAL というプログラムが終了して、今度アンバトやチンボラソ県のペニペ郡、グアノ郡を含む農村地域に対し、本 JICA プロジェクトと同じようなコンセプト（総合農村開発）で PRODER というプロジェクトを非先住民族を対象に行う予定である。しかし、予算が足りないため、資金源を探している。クリカマ知事から互いに同じコンセプトを持つので、JICA にこの PRODER の支援の可能性を探ることを示唆された。 <JICA の対応について> まだ本 JICA プロジェクトは MIES とコンタクトを取っていないので、その情報について JICA エクアドル事務所から取ってもらうことを考える。また、本プロジェクト（第 1 フェーズ）のモデル地区はコルタ郡、グアモテ郡、リオバンバ郡のため、対象地域が一致しないため、協同で行うことは難しい。第 2 フェーズになれば、協同で行う可能性も出てくる。しかし、もし PRODER が実施されれば、お互いに情報交換したい。	

議 事 録 (8)

日付	2008年9月8日 PM8:30～4:20
場所	San José de Chancaguan (リオバンバ郡)
面談者 及び 出席者	Sr. Wiliam Hernandez/FECD(開発のためのエクアドル協力信託機関)総裁、Sra. María Eugenia Lima/FUNDAMYF (アンデス地方女性と家族基金) 理事、Srta. Sonia Alcívar Terán/FECD プロジェクト担当、Andrea/チンボラソ県政府、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
● FUNDAMYF について 女性組織への支援活動を始めて 14 年になる。FECD が資金、モニタリング、技術指導、戦略指導を行い、FUNDAMYF は実施と運営支援を行う。ジェンダーの平等と多文化主義のヴィジョンを持つ。活動はチンボラソ (コルタ、グアモテ、リオバンバ郡を含む 5 郡で活動している)、コトパクス、トゥングラワ、ボリバール、カニヤール県で実施している。地域の能力を活かし、教育、予防保健、環境 (植林含む)、生産的経済 (生産、集積センター、商業化 (地域、国、国際レベル))、組織強化に取り組んでいる。プロジェクト目標は総合開発を実施することである。 生産セクターにおいては、市場需要で生産物を決定し、栄養保障も担う。農業普及員を育て、耕作面積を増やし、生産性を上げ、生産量を増やす。また、有機栽培の認証を取り、加工し、付加価値を高める。人的資源も高める。10,000ha.にとうもろこし、豆、ルピナス、キヌア、アマラントを栽培している。改良されたクイ・乳牛・羊を飼育して増やし、生産物を販売している。また、クレジットは 16,000 人 (チンボラソ県) に対して行っている (利子率 12%)。3 カ月前に立てられた集積・加工センターを持つ。土地はリオバンバ郡から寄付されたもの。生産物は外国市場に販売する予定 (米国など)。各種スープ、キヌアパスタ、キヌア&アマラントのグラノーラとバー、及び、キヌア、ソラマメ、えんどう豆、アマラント、ルピナスそのもののパックなどを生産している。 保健セクターでは、保健普及員 (ボランティア) を育て、子供と成人の栄養不良対策、一般医薬品 (家族計画のための薬を含む) の販売 (販売すると保健普及員に 15%の利益が上がる)、衛生指導、保健指導等を行っている。 教育セクターでは、女性たちにより作られた実用的な教科書を使って、教育普及員 (ボランティア) を育成し、子供と成人に対して、識字教育、算数、自然科学などを教えている。また、手工芸品やシャンプーなどを作り、販売している。これらはすべて研修を行っている。 環境セクターでは、苗木を育て、植林を行っている。 組織強化においては、女性組織の設立、強化を行い、リーダー研修、組織網の開拓等を行っている。チンボラソ県では 5,500 人の組合員がいる。受益者 (5 県全体で 86,800 人) のうち 40% が世帯主である。	

- FECD について

カナダからの援助を資産とし、現在米州開発銀行、国連、ヨーロッパ連合、イタリアの援助を受け、FUNDAMYF を含む 23 のプロジェクトを持つ。受益者の 40%が女性である。

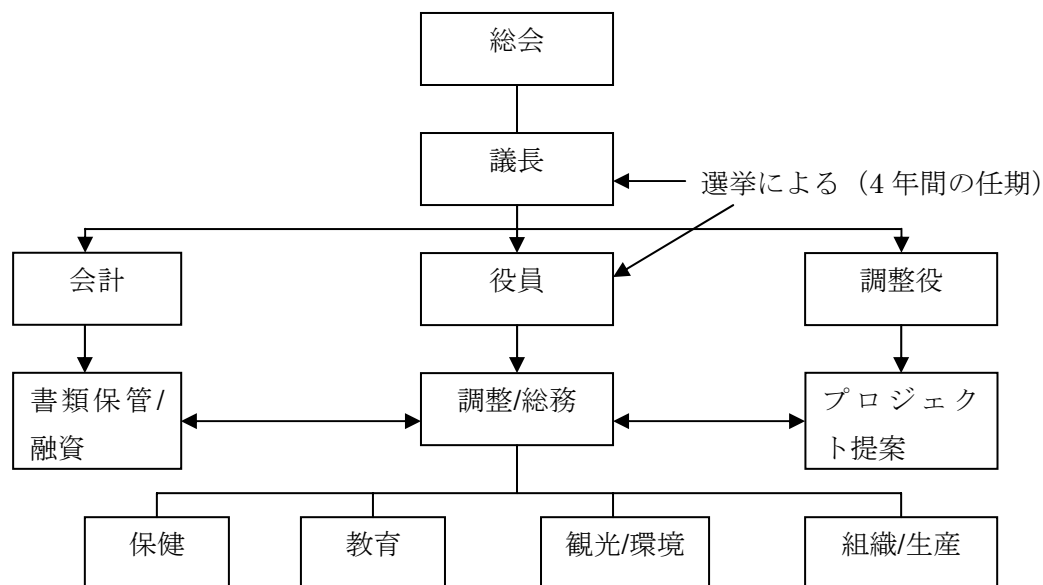
議 事 録 (9)

日付	2008年9月9日 AM10:00~11:30
場所	Palmira 地区評議会事務所（グアモテ郡）
面談者 及び 出席者	Luis Alberto Cuña/地区評議会議長、役員 5 名（男性 3 名、女性 2 名）、Andrea/チンボラソ県政府、Naula Charito, Victor/グアモテ郡普及員、山内調査団員、長嶋調査団員

内 容

●地区評議会について

地区評議会が出来てから 8 年。議長の下、教育、保健、観光/環境、組織/生産の 4 つの委員会があり、役員は 5 名。組織については以下の図のとおり。



役員は日当と報告書に対する手当がもらえる。役員は男性 3 名、女性 2 名が、法律では男女半々と決められている。議長と役員らは、資金を得るため、リオバンバやキトへ行く。グアモテ郡からもらった車を一台所有している。地区開発計画（草案）があり、6 つの分野にわたっている（未入手）。予算は日当、文房具など必需品で構成されており、地区の開発計画の実施は、県や郡の予算でまかなわれている。地区は開発計画実施のフォローアップを行う。

●現在実施しているプロジェクト

保健分野では、Sarachupa 集落と Galtes Tipines 集落で飲料水のプロジェクト、保健サブセンター、保健ポスト、社会保障の医療センターで医薬品の供給、保健省が研修を行っている。

教育分野では、スペイン語と二重言語（90%）の教育を行っている。36 の小学校、3 つのアカデミア（8 年~10 年度）、3 つの小中統合学校（公立、二重言語教育）、1 つの中学校（8 年~13 年度）がある。

環境分野では、環境保全に関する研修を共同体リーダー及び児童に対して行っている。環境省と調整し、水源の保全などを行っている。

生産と組織分野では、市場が足りない。3つの植生分布域がある。高い地域ではジャガイモ、大麦、ソラマメ、小動物の家畜、オカ、マシユアなどの栽培/飼育、中域では小麦ととうもろこしの栽培、低域ではキヌアとルピナス、レンズマメの栽培を行っている。アタゴ集落とマワソ集落では、牛乳と肉の生産を行っている。チーズの加工の要請を行った。県政府の行う乳製品（チーズ）販売チェーンを活用している（生産はしているが、品質管理が必要）。乳加工の技術支援が必要。ジャガイモは収益性がないので栽培しなくなった、種もなくなってきて、出稼ぎに行く人が多くなる。生産（農牧）の収益性が向上すれば、生産に従事したいと思っている。

灌漑システムの技術支援が必要。伝統的作物の価値が失われてきている。

●生活

地区の人口は 12,300 人。収入源は農牧業。より付加価値を付けることが必要であり、流通が必要である。MAGAP や INIAP は技術のことしか分らない。また、小企業も必要である。問題点としては灌漑システムの良い管理がない。人々の技術化が必要である。より多く消費し、より少なくしか生産しない。また、雇用源がない。収益性もなく、生存のための生産のみとなっている。そのため、少なくとも 30%~40%の家長、若者の大半が出稼ぎしている。生産物収集センターも必要である。

地区には 36 の共同体があり、26 の女性組織がある。中間業者は不当な対応をする。遠距離にあるため、保健サービスを受けるのが難しい。救急車がほしい。道も悪い。道路整備用トラクターがほしい。

子供に教育を受けさせるのが難しい。生産技術を研修する学校が必要。

家畜に付加価値を付けたい。また、加工品（ソーセージなど）を作れるようになりたい。そのための機械がないのでほしい。

地区の中心部では、上水、下水施設が必要。宗教的観光業も振興させたい。（←県政府の予算でまかなうことができる）

議 事 録 (10)

日付	2008年9月9日 PM2:00~3:30
場所	Columbe 地区評議会事務所（コルタ郡）
面談者 及び 出席者	地区評議会議長、役員 1 名（男性）他地区住民数名、Andrea/チンボラソ県政府、 Naula Charito, Victor/グアモテ郡普及員、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
●地区評議会と地区について 地区評議会は議長、副議長の下、3 人の役員（男性）、1 人の書記/会計がおり、教育、保健、道路、観光の 4 つの委員会がある。予算は 28,230US\$ で、投資と諸経費を含む。64 の共同体、18,000 人が住んでいる。地区議会は、各共同体リーダー 64 名により構成される。地区には 68 の組織があり、52 の女性組織がある。同地区は創設 176 年（124 年？）の歴史を持つ。 ●地区の開発について 保健分野については、飲料水と道路のプロジェクト、乳幼児に対するサービスを行っている。地区には 5 つの保健サブセンターがあるが、医療技術者や医薬品が足りない。 人間開発基金は、すべての共同体に配布している。また、'エクアドルに栄養を'プログラムでは食糧倉庫をまかなっている。 教育分野については、スペイン語、二重言語（75%）教育を行っている。35 の小学校、10 の中学校、そのうち 3 校が専門学校である。識字教育（キューバ、教育省）も行っている。女性の非識字率が高い。 生産分野については、キヌア（全収量の 40~50%）、大麦（20~25%）、小麦（5%）、オカ、マシユア等を栽培しているが、土壌浸食により、生産量が減少している。また、ジャガイモなどの伝統的作物、ニンジン栽培も低下している。市場は、リオバンバ、グアモテ、カハバンバ（郡都）にある。問題は灌漑システム、灌漑技術の不足がある。また、栄養保障の点も問題であり、多くの出稼ぎを引き起こしている。家畜は、自家での乳加工（チーズ、ヨーグルト）を行っている。全地区で日量 1 万リッターの牛乳を生産している。だが、加工技術が必要である。羊毛製品（服など）を作って市場に売っているが、競争に負けてしまう。 Columbe は文化遺産としてポンチョや衣装、町並みなどを保存し、観光を活性化すべきである。 環境分野については、土地の風化が起こり、植林が必要である。パラモが残っている地域があり、パラモの保全の必要性がある。環境教育（特に植林計画）が必要である。 飲料水については、水源が不足している。 ●問題点 地区には建物（集会所、スポーツ施設）がない。道路も悪い。 文化遺産の指定を望んでいる。 灌漑システムが不足している。 環境・保健教育の充実が必要。	

議 事 録 (11)

日付	2008年9月10日 AM9:30~10:50
場所	チンボラソ県政府会議室
面談者 及び 出席者	Carlos Morales/チンボラソ県政府県知事補佐、Andrea/チンボラソ県政府、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
●コルタ郡 Columbe 地区評議会議長が訪問時一言もしゃべらなかった理由について 議長は大学教育を受けておらず、役員の 2 人は大学を出ていることで、議長は自信がないのではないかと。これも来年 2 月に選挙があれば変わるだろう。 ●コルタ郡 Columbe 地区の宗教について 役員 7 名のうち、5 名がモルモン教系で 1 名がモルモン教へ転向しようとしている。モルモン教は飲酒を禁じ、家をきれいにし、開発の計画なども出している。また、モルモン教はラジオコルタを持っており、前は宗教音楽ばかりだが、今はポピュラー音楽も流すようになった。 ●カウンターパートについて 地区評議会（Junta Parroquial）をカウンターパートにしてほしい。なぜなら集落により近い権威だからである。郡政府にはインターネット、もしくは直接に情報を流す。 ●ボランティアの協力について 10~11 月から PPCH（参加型予算策定）プロセスが始まる。45 農村部地区議会と 12 の都市部地区議会、3 つの県議会があり、60 のプロセスが始まる。それを 9 月にくるボランティア調整員、ボランティアの方々に見てほしい。なぜなら計画や予算策定の方法を知ることができるし、また、各地区の必要なものを知ることができるからである。（←Andrea。ボランティアはプロジェクトへのつながりを考慮しながらその活動計画を作ることになっている。） ●研修について 県政府のカウンターパートに日本国や第 3 国での研修を受けさせたい。 ●プロジェクトの広報・啓発活動について プロジェクト活動の広報・啓発を、その土地の文化的価値や慣習を考慮しながら文化的活動（劇、ドラマなど）を通じて行いたいと考えており、是非プロジェクト活動に入れてほしい。それは促進グループを作って行う。そのような活動であれば、双方向のコミュニケーションが図れる。集落普及員とともにコミュニケーションや促進計画を作りたいと考えている。 ●集落のプレ・セレクションについて 集落のプレ・セレクションを本日中に行い、知らせる。地区（パロキア）としては、コルタ郡は Columbe と Cicalpa 地区、グアモテ郡は Palmira、Cebada 地区を選ぶ。リオバンバ郡についてはリクト地区ともう 1 つの地区は検討中である。	

議 事 録 (12)

日付	2008年9月10日 PM3:20～4:20
場所	CONAMU 総裁室
面談者 及び 出席者	Ximena Abarca Durán/CONAMU 総裁、その他担当1名、山内調査団員、長嶋調査団員
内容	
●CONAMU について CONAMU は 1997 年に設立され、オフィスはキトのみで、20~25 人の技術者が働いている。CONAMU の役割は、政策の策定と女性組織の強化促進である。役員会は女性組織と政府の代表各 50%ずつで構成されている。総裁は女性運動団体の代表であり、Ximena は 1 年前に就任した。 ●実施した/しているプロジェクト 1996 年以前 EU によりチンボラソ県にて農村の女性プロジェクト（5 年間のプロジェクト）を実施した。その中では主に生産面を強調し、他に保健のプロジェクト（PASSE プロジェクト）をチンボラソ県で行っており、その中でジェンダー平等や女性の健康について促進を図っており、女性のお産を支援、垂直出産など伝統的文化を尊重している。 農村女性対象プロジェクト「農村女性の優先的国家政策」（PNPMR）があり、コトパキシ、ナポ、チンボラソ（リオバンバ郡）、エスメラルダスでパイロットプロジェクトを行っている。FAO が融資をし、今年 10 月に本格プロジェクトを開始する予定である。政策に女性によるリプロダクション、性行動、経済、政治、文化的権利がある。権利に係る研修などを行い、啓蒙の結果が活動につながるようにする。 ●母子保健への支援について 法律で母子保健は無料だと定められており、それを促進しているとともに、母子保健サービス受益者の委員会を作り、CONAMU はその強化促進を図っている。この委員会は女性組織により主宰されている。 ●性的暴力の防止についての活動 母子保健の無料を定める法律を促進する委員会を設立し、性暴行、性教育、教師による生徒への性暴行などを減少するための啓蒙活動を行っている。また、教育環境における性暴行を撲滅するため教育省と協力している。さらに、学校教育の参加の平等性（女兒も男兒も平等な勉強の機会を確保するための促進）を図る活動も教育省とともにやっている。 ●新憲法案について 新憲法案には、女性の多くの権利について促進が図られており、賛成している。 ●女性組織について 女性組織が政策への参画を図る支援をしている。組合活動（女性労働者—知識層）も支援している。女性の政党もある。新憲法では参加型計画を推進しており、女性も組織化して政策に参画できるように努力している。また、生活のために戦う女性団体（Mujeres Luchando por la vida）	

や Luna Crecitante など下層先住民族女性により構成されている。また、先住民族女性の国家諮問委員会や CONAIE（先住民族女性による）、アフロ黒人女性の組織、レズビアン女性グループなどがある。

●データベースについて

農村女性のデータベースを構築中である。

●地域諮問委員会について

政治的活動についてリーダーシップを図るような研修、組織強化を行う予定である。チンボラソ県で行う予算がないので、JICA が支援してくれれば CONAMU は体制が出来ているので、協力が可能である。

●JICA の研修について

職員にジェンダーに係る JICA の日本国、第 3 国での研修を是非受けさせたいと考えている。

集落ワークショップの結果

現地ワークショップの結果を以下に示す。

なお、短い調査期間で、集落の問題の抽出に加えて、男女の違いで出される問題がどの様に異なるのかを確認するために、同一集落で、異なる種類のワークショップを一回ずつ実施した。

まず第1日目に、女性だけを対象としたワークショップを開催し、女性が考える集落の問題点を抽出、整理した。第2日目は、男女ともに参加するワークショップを開催し、同様に集落の問題点を抽出、整理するとともに、前日の女性だけの参加者から出された問題点との比較を行った。以下に示すように、男女が一緒に参加するワークショップの場合、主に男性の意見が強く出されることになり、一日目に整理された問題と、二日目に整理された問題に違いが見られる。

1. El Lilio, Cantón Colta (コルタ郡、El Lilio 集落)

① 女性のみ対象 (25 名ほど参加) のワークショップ

参加者は女性組織のメンバーであった。初めは問題を挙げるのに時間がかかったが、段々問題が挙げられるようになり、また、カードの説明にも活発に発言があがるようになり、最後に中心問題を決めるときには2グループに分かれて、全員が議論に参加する姿勢を見せた。彼女らからは、「このようなワークショップはこれまでもあったが、女性に対して行われるのは初めて」という声が聞かれた。その今までの分を取り返すかのように、教育、組織、移民、経済、保健、女性特有の問題と、さまざまな問題が活発に挙げられた。特に、女性特有の問題については、彼女たち自身の経験に基づく貴重な発言が見られた。

カードがキチュア語で書かれていても読むことが出来ない人がいたため、カードを一枚一枚確認する作業は通訳を介して長時間を要した。幅広いテーマが挙げられたため、テーマ毎にカードをグループ化し、カードを確認していった。原因—結果の関係を見出す作業は難しいと考えられたため、ファシリテーター自身で行い、それを彼女たちに確認するという形式を取った。あるカードは、スペイン語のみがかかれていたりしたため、その関係、問題分析系図の把握が十分にできていなかったように見えた。

問題は大きく農牧関係の問題と、女性特有の問題の2グループに集中した。そこで中心問題には「低い農牧生産」と「女性の権利についての知識が十分でない」が挙げられたが、このカードの選択については全体問題分析の位置関係が十分に把握された上で出て来ているものとは見えなかった。ただ、彼女たちの識字率の低さの上に、カードがキチュア語で書かれていても読めない人があること、スペイン語—キチュア語の通訳を介したことを考えると、これは仕方の無いことではなかったかと思われる。

それでも女性の問題については、「女性に対する肉体的精神的暴力」、「医療サービスにおける女性に対する悪質な対応」、「中間業者による女性に対する侮辱と言葉によ

る暴力」、「産婦の栄養失調」、「女性の教育に対する重要性の認識不足」、「家庭内での女性の発言権が無い」、「女性が家事従事をする存在と考えられている」等、女性に対する男性による差別や暴力及び先住民族女性であるがゆえの差別が見られ、それにより「女性は自信が持てなくなっている」現状がうかがえた。

その一方で、「家長よりも女性の責任が多い」、「家族におけるすべての心配事は女性が担う」等、女性が家族の重要な責任を担っており、その結果「女性の心配事や病気が多い」となっていることが見られた。

また、「青年の伝統的文化及び習慣、価値観の消失」、「青年たちの母国語に対する価値観の消失」等、伝統的文化を重んじる傾向が見られた。

②男女対象（40名ほど参加）ワークショップ

初めから大変活発に問題が挙がり、議論がなされた。参加者の多くが男性で、女性は少数であったが、女性からも活発な発言が見られた。男性の大半はスペイン語を読み書き、話せたが、女性の大半はキチュア語のみ使うことができたため、議論はキチュア語の通訳を介した。男性はスペイン語を読み聞き話せることにより、より活発に議論に参加できていた。カードを確認する作業も、スペイン語が分かることにより前日より早く行うことが出来た。前日同様カードをテーマ毎にグループ化したが、今回は各グループの中で中心問題を設定することにより、よりカードへの理解を図るよう努めた。

教育については、「先生のレベルが低い」、「先生が時間遵守しない」、「生徒及び先生に対する評価の仕組みが無い」、「教師の研修システムが無い」等、「学校教育の質が悪い」ことの問題が多く挙げられた。ここで「マチズム」が挙げられ、教育の場でもマチズムを再生産していることがうかがえる。

保健については、「病院での悪い対応」等、先住民族ゆえの差別と思われる発言が見られたほか、「医師不足」、「医薬品の入手困難」「性的健康管理の知識不足により女性が死に至る場合もある」等による「保健サービスの不備」が挙げられた。

また、最も多く問題が挙がったのは農牧問題である。中心問題としては、多くの人から問題として挙げられた「灌漑の不足」であった。

一部の男性から、「先住民社会へのメスティソ社会の侵入」、「不適切な住居（セメント建材のため）」、「伝統的教育方法が尊重されない」等、伝統的なものを尊重し、メスティソ社会の侵入を嫌う傾向の発言があった。それは3つのグループに分かれて問題を出す作業をしたとき、サンティアゴ氏（JICA エクアドル事務所、メスティソに属する）がグループに参加しようとしても、議論がキチュア語で話され、参加することができなかったことにも見受けられた。また、他の参加者からも「伝統的医療の知識

不足（若い人々の関心が薄い）」や「伝統的薬草等を取り扱うセンターが無い」等、伝統的医療を重んじる傾向が見られた。また、「病院での悪い対応」や「人種差別、不十分な自尊心」等、先住民族に対する差別と、その結果先住民族側に自信の無さがあることが見られた。

ジェンダーについては、女性の問題を出すことを促したが、「マチズム」以外問題は挙げられなかった。全体の議論の中では、キチュア語—スペイン語の通訳を介し、多くのカードが出されたこと、時間的な制約からジェンダー問題を深めることは不可能であった。これは Sarachupa での男女のワークショップでも同様であった。

2. Sarachupa, Cantón Guamate (グアモテ郡、サラチュパ集落)

①女性のみ対象（20名ほど参加）ワークショップ

参加者は組織化されていなかったが、スペイン語がしゃべれない（書けない）が、理解できる女性がかかなりいたため、進行が比較的簡単であった。ただ、2グループに分かれて問題を挙げるときには活発に意見が出されたが、全体の議論では数人の女性のみ発言していた。ここでは、初めてテーマグループ毎にカードを見ていくと同時に彼女らとともに原因—結果の分析を行うことができた。これはファシリテーターによる誘導も強かったためであるが、必ず彼女らからそれに応じた内容の発言があり、理解はしており合意したものと思われる。

この村では貧しいがゆえにだと思われるが、女性特有のショッキングな出来事が語られた。「女兒の村の外部への人身売買が多い」、「出稼ぎに行った女性が妊娠した場合帰ってきて家で中絶を行うことが多い」等である。また、「家庭内における女性差別」や「家長の女性に対する協力が少ない」等、家庭内での発言権が無いことや「共同体外に出られない」等、行動の範囲が限られていることなどからくる「女性の人権侵害」や「人間開発が不十分である」、「学習する機会が少ない」、「社会参加が少ない」等、多くの女性が社会の中で不利な立場にいたことが挙げられ、その結果「女性は自信が持てない」という問題が挙がった。

また、この村でも「伝統的治療法が尊重されない」、「薬草についての知識不足」等、伝統的医療を尊ぶ傾向が見られたが、これは公共保健サービスによる「病院の対応が悪い」、「薬品の価格が高い」、「医療サービスの不在」、「保健所が村から長距離にあり輸送機関がないためサービスが受けられない」、「医者が先住民族女性に対する対応が悪い」等、「医療サービス不足」があるためでもあると考えられる。

教育についても、「女性が教育を受けることに対する差別がある」、「女性の家族及び子供に対する責任が大きい」ことから「教育を受ける機会が少ない」と感じており、「識字化プログラムが女性の生活条件にとって適切でない」等により「女性の非識字

率が高い」ことが中心問題としてあげられた。これは、スペイン語が読み・書き・話すことができれば、他のことも容易、可能になるから最重要事項である、という発言に全体が合意したためであり、教育の長期的及び広範囲な影響という展望にたった、彼女らの学習に対する認識の高さがうかがえる。

商業化についても、多くの問題が挙げられたことにより、商業化に対する意欲が高いものと思われる。これは「生産物の公式価格がない」等により、「生産物の商業化が困難」、「価格のコントロールが無い」等、女性が生産物の商業化行為を実際行っているためと考えられる。また、「女性の組織が無い」という発言があり、組織化したい意欲がうかがえた。これは「中間業者が女性であり先住民族であるため差別される」、それに対し「中間業者がよく組織化されている」ため、そのような意識が出てきているようである。

農業についても、実際に「彼女達が農作業に従事している」という発言があったことから、多くの問題が挙げられ、また、「女性を対象にした研修プログラムが無い」という同分野での向上を目指す発言があった。

②男女対象(30名ほど参加)ワークショップ

3つのグループに分け、多くのさまざまな問題があがった。本ワークショップでもファシリテータの誘導の下、カードの問題分析を行っていった。

中でも商業化については、盛んに議論が交わされ、当該テーマに対する切実さがうかがえた。本テーマの中で重要な問題を選んだところ、「正当な市場の不在」と「生産者組織の不在」が挙げられた。議論の中での発言から、前者については中間業者による先住民族ゆえの差別や、悪い取り扱いがあることがうかがえた。

教育においては、「教育の質が悪い」、「教育施設が共同体から離れている」、「学校に教師が1人だけである」、「学習のための意欲不足」、「学校児童に対する教師による悪い取り扱い」、「両親に対する教育の重要性の啓蒙が不足しているために学習を妨害する」こと等から、「(中等)教育を受けることが困難である」ことがあげられた。また、「一般及び伝統的文化を教える教師が必要である」等、伝統的文化を守る傾向が見られる一方、「バイリンガル教師がキチュア語を話せない」等、適切な教育体制が整っていないことが見受けられた。

経済活動については、多くの問題が挙げられ、後に述べる保健とともに切実な問題を抱えていることがうかがえた。そこで多くの原因を抱える「農牧生産量が低い」ことが、中心問題として挙げられた。また、共同体に灌漑設備は少しあるが、水が無いことから、「水資源の不足」、「灌漑の不足」が挙げられたほか、「農牧生産技術の不足」、「共同体の事情に適合した技術協力が不足」に関心が見られた一方、最も多くのカードが出されたのが出稼ぎによる問題であり、この問題の深刻さがうかがえた。他のワ

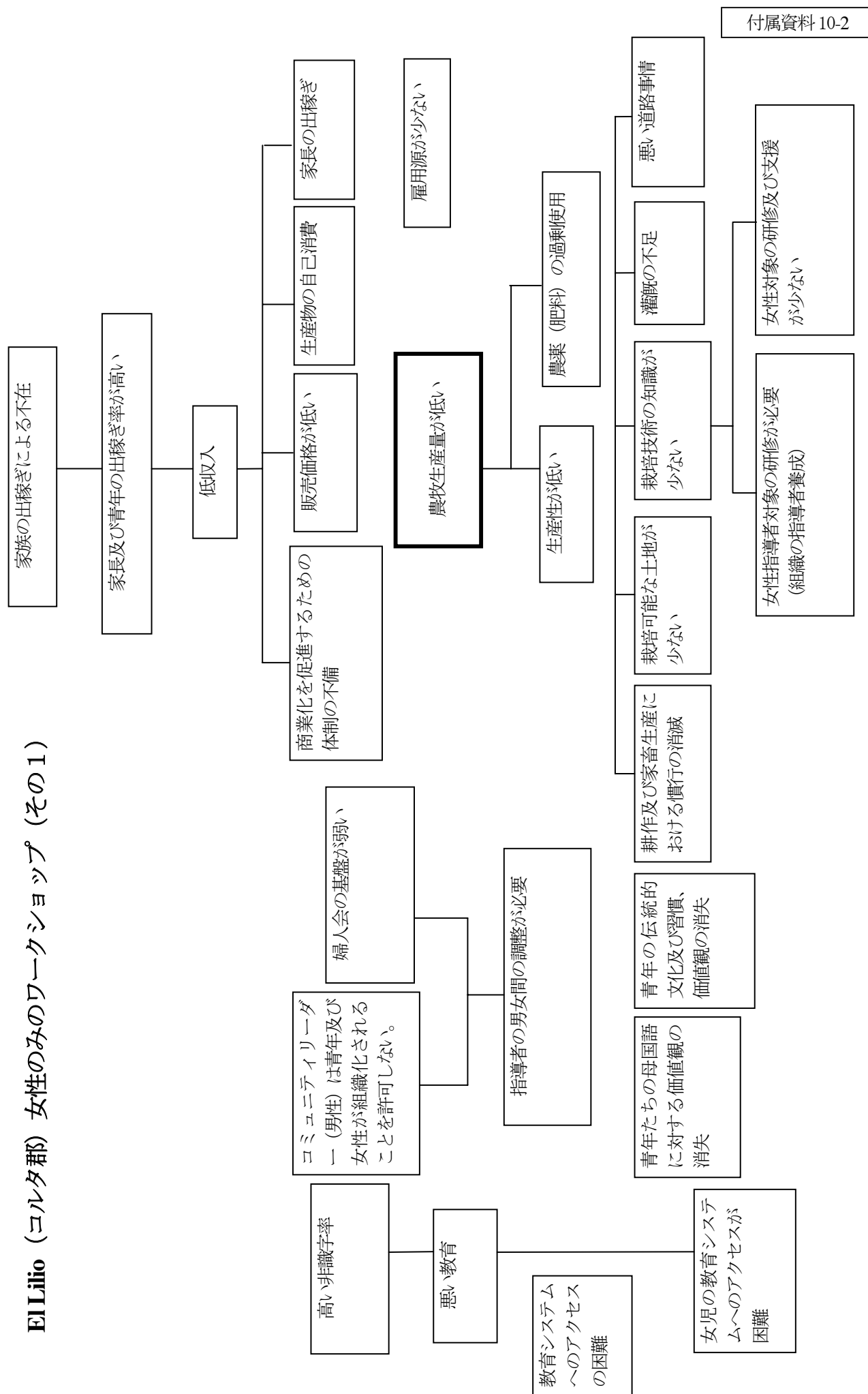
ークショップでも挙げられた「家族の出稼ぎによる不在」のほかに「出稼ぎからの帰省者は悪い習慣を持ち込む」、「出稼ぎが悪い行動に影響する」等、出稼ぎからの帰省者が共同体に悪い影響を及ぼしていることがうかがえた。また、「出稼ぎは家族や個人に対して危険である」、「出稼ぎにより人間の尊厳を喪失する」等、本共同体では出稼ぎが家族及び本人にダメージを及ぼしていることがうかがえた。

本共同体には、保健支局が存在しない中で、保健については「保健支局におけるサービスの質が悪い」、「保健支局の不在」、「保健支局は常に閉まっている」、「保健サービスを受けることが困難」、「遠距離及び輸送機関の不在のために保健支局に行くことが困難」、「保健支局の設備の不在」等、保健支局に対する問題が多くあげられた。また、医薬品の問題も「医薬品の入手が困難」、「医薬品が異常に高い」、「有効期限の切れている医薬品が多い」、「医者是一般的医薬品しか処方しない」等が多く挙げられた。また、「当該共同体を担当する保健員」がいないことも挙げられた。

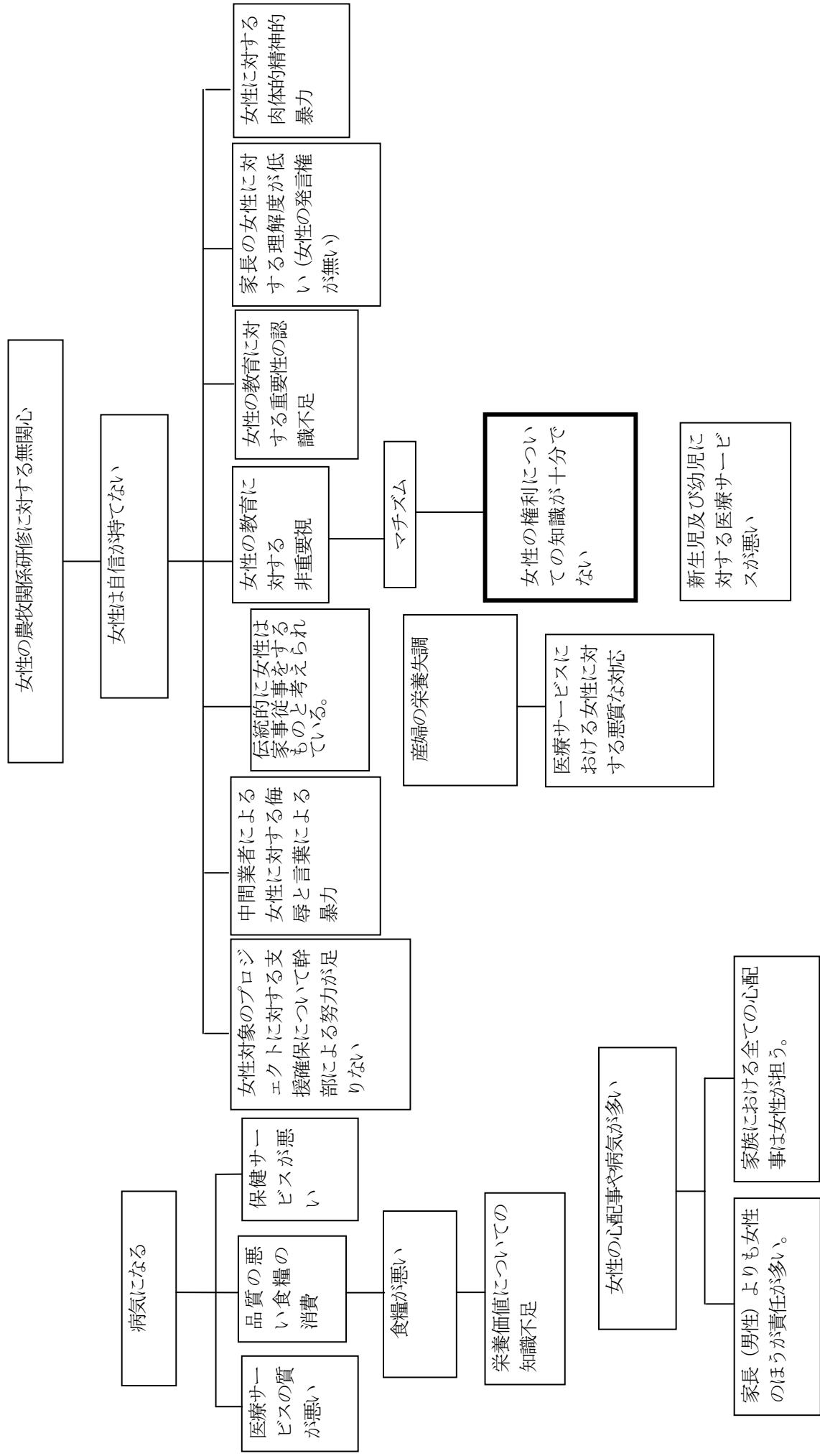
参加者は、男女約半々であったが、前日の女性による活発で深い議論にも関わらず、本ワークショップでは発言するのは男性で、女性はファシリテータが促さないと意見を述べなかった。そのため、女性の問題を出すことを促したが、問題は挙げられなかった。

以上

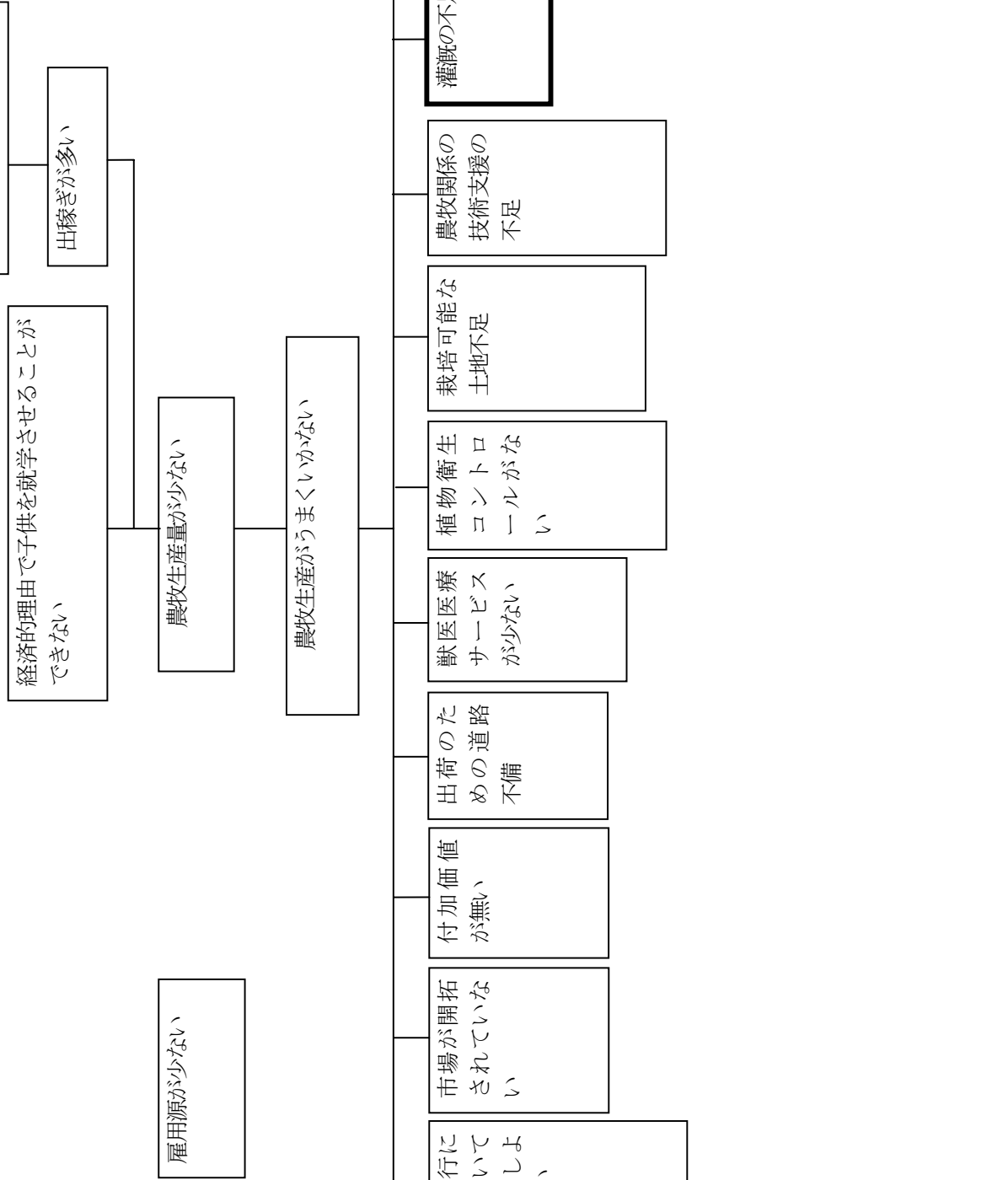
El Lilio (コルタ郡) 女性のみのワークシヨップ (その1)



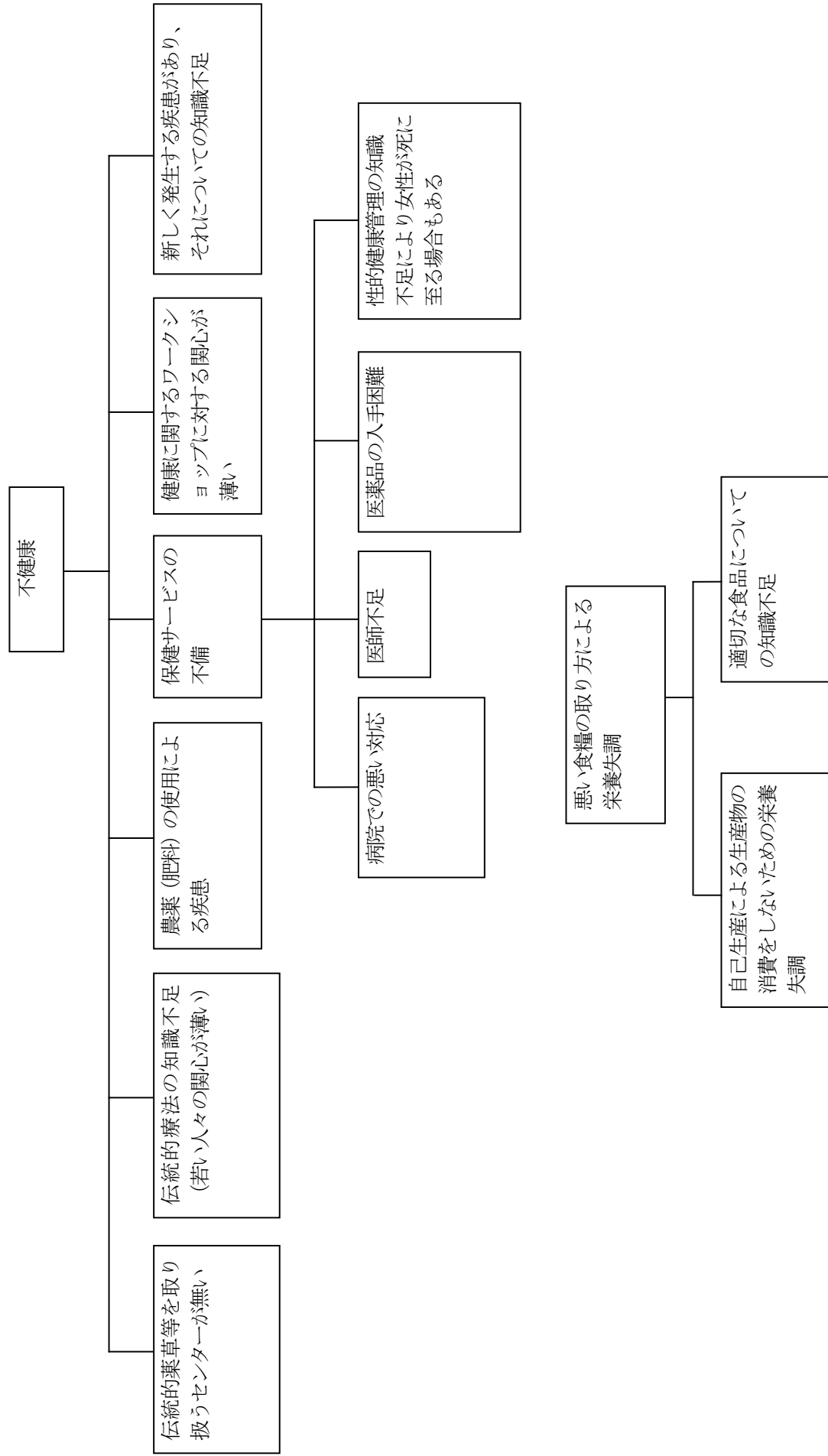
El Lilio (コルタ郡) 女性のみのワークショップ (その2)



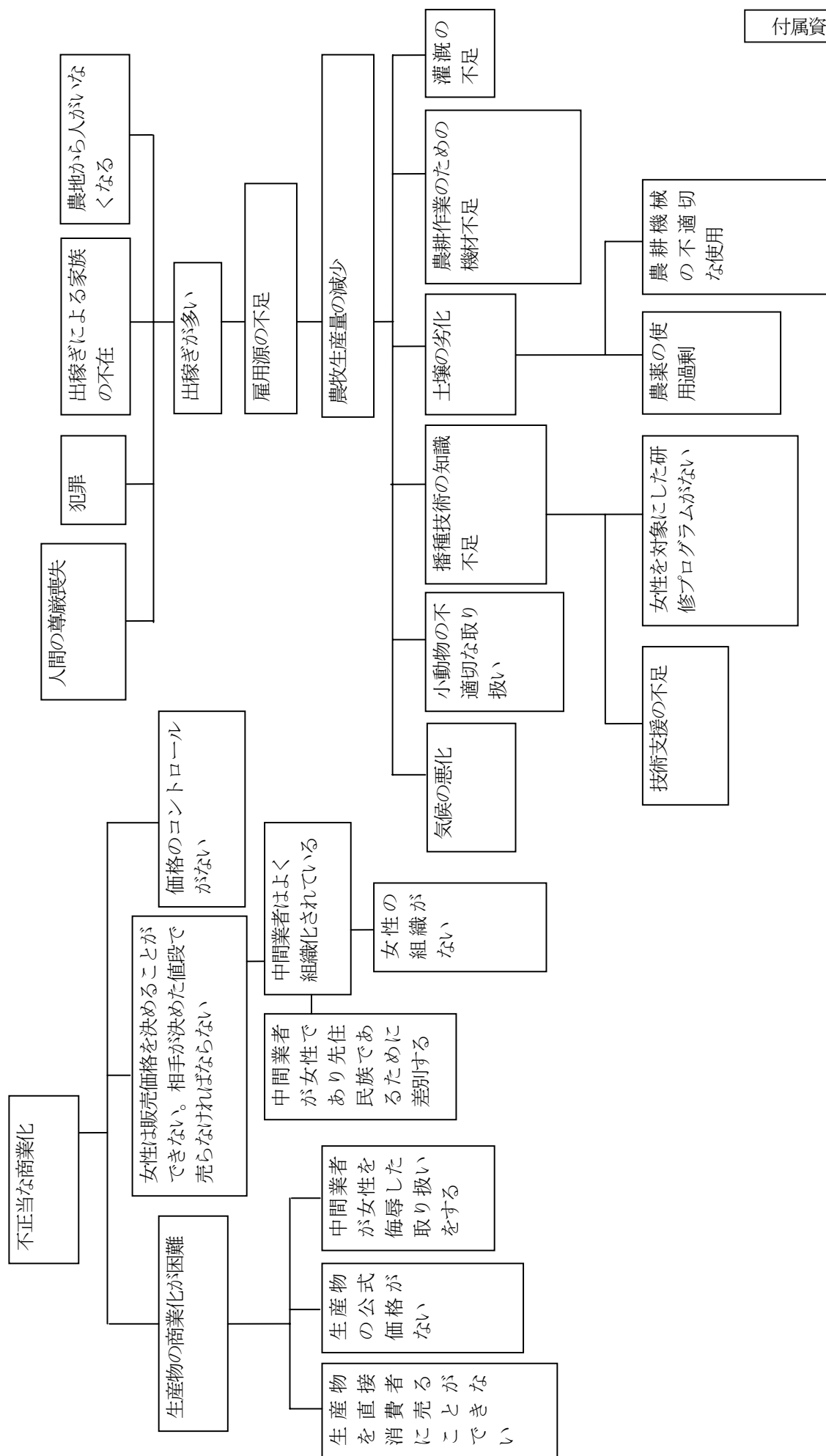
家族の出稼ぎによる不在



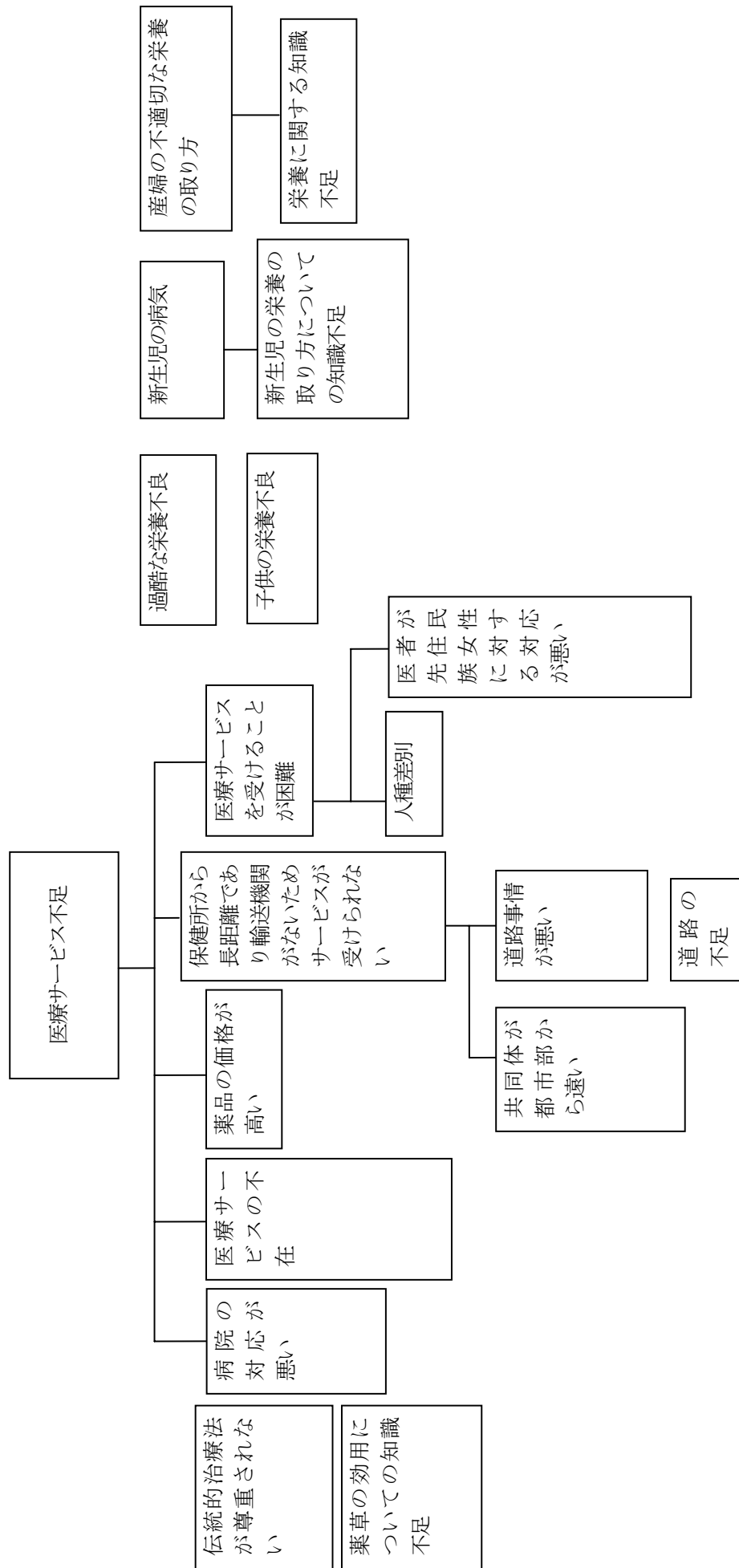
El Lilio (コルタ郡) 男・女ワークシヨップ (その3)



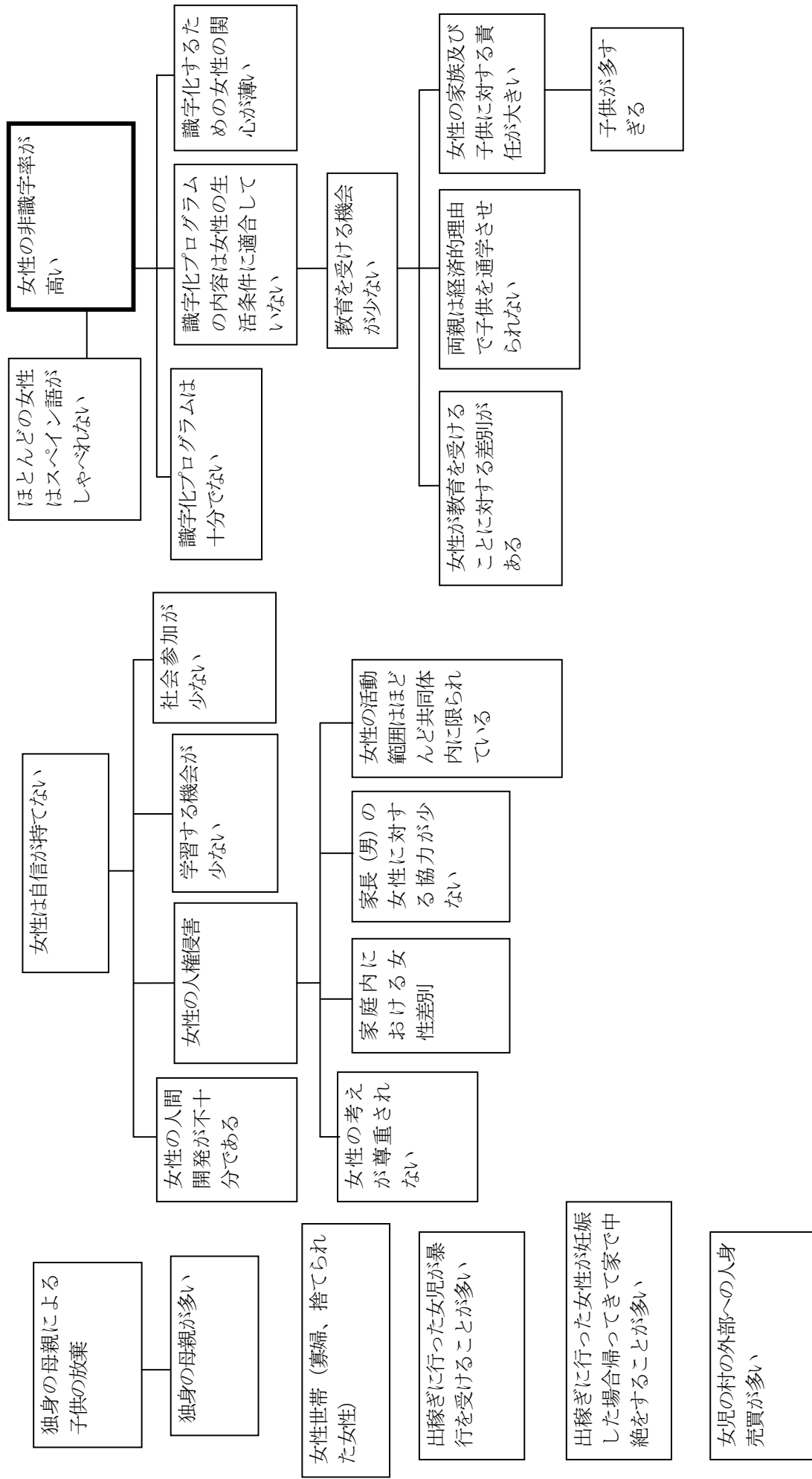
Sarachupa (グアモデ郡) 女性のみのワークショップ (その1)



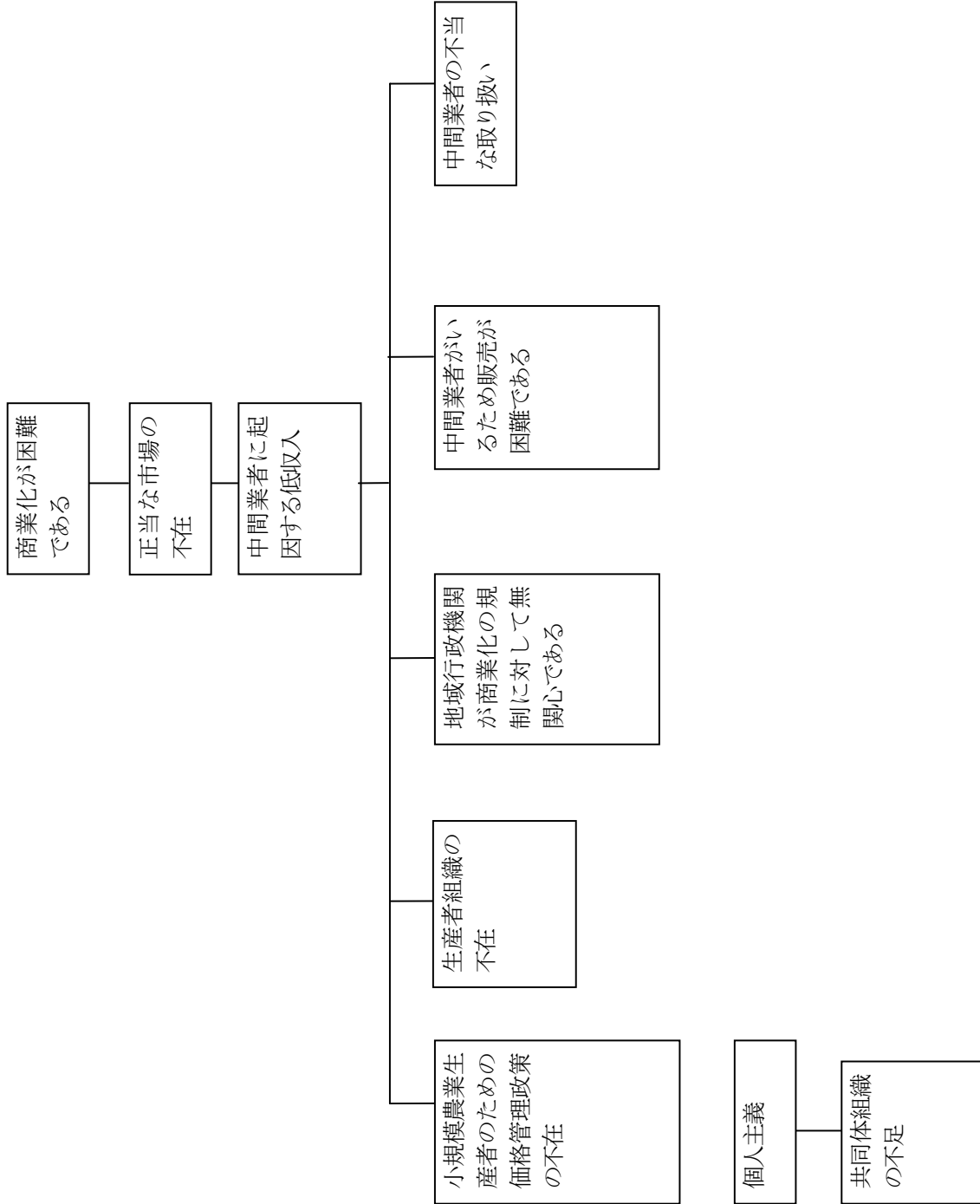
Sarachupa (グアモテ郡) 女性のみのワークショップ (その2)



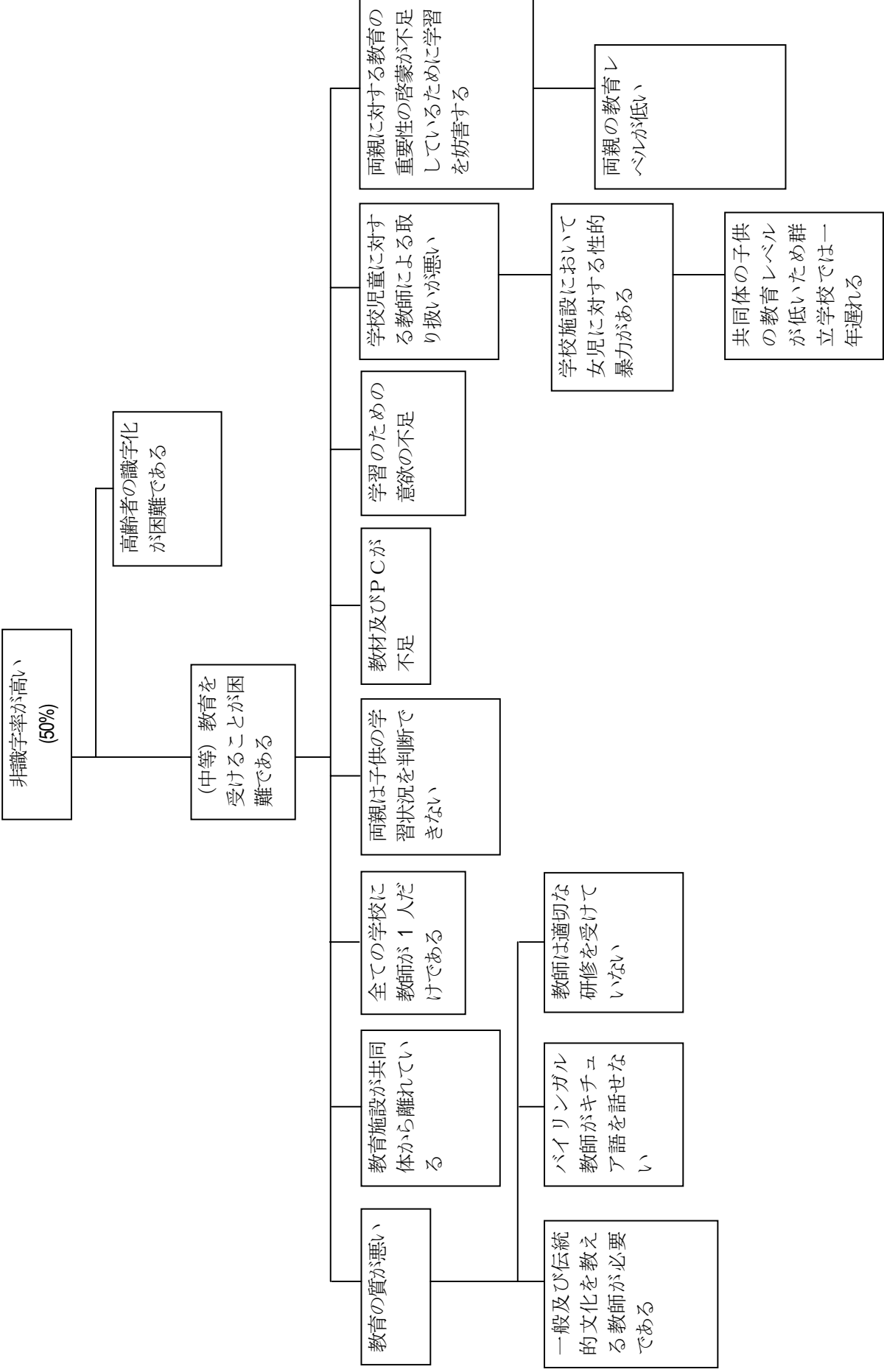
Sarachupa (グアモテ郡) 女性のみのワークショップ (その3)



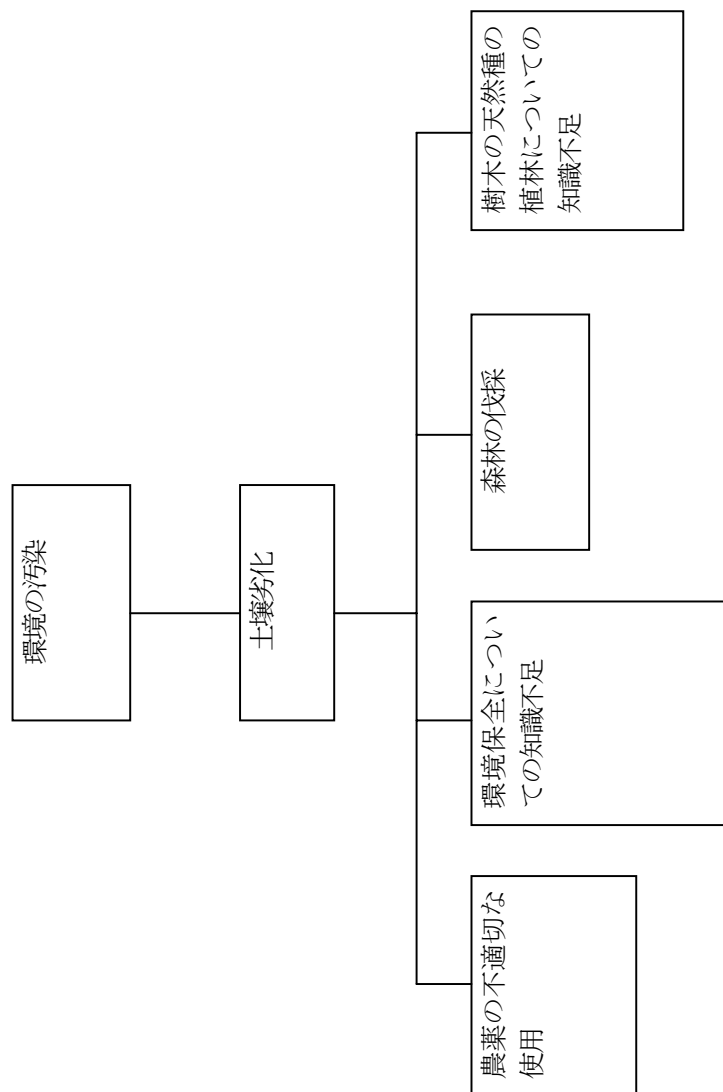
Sarachupa (グアモテ郡) 男・女ワークショップ (その1)



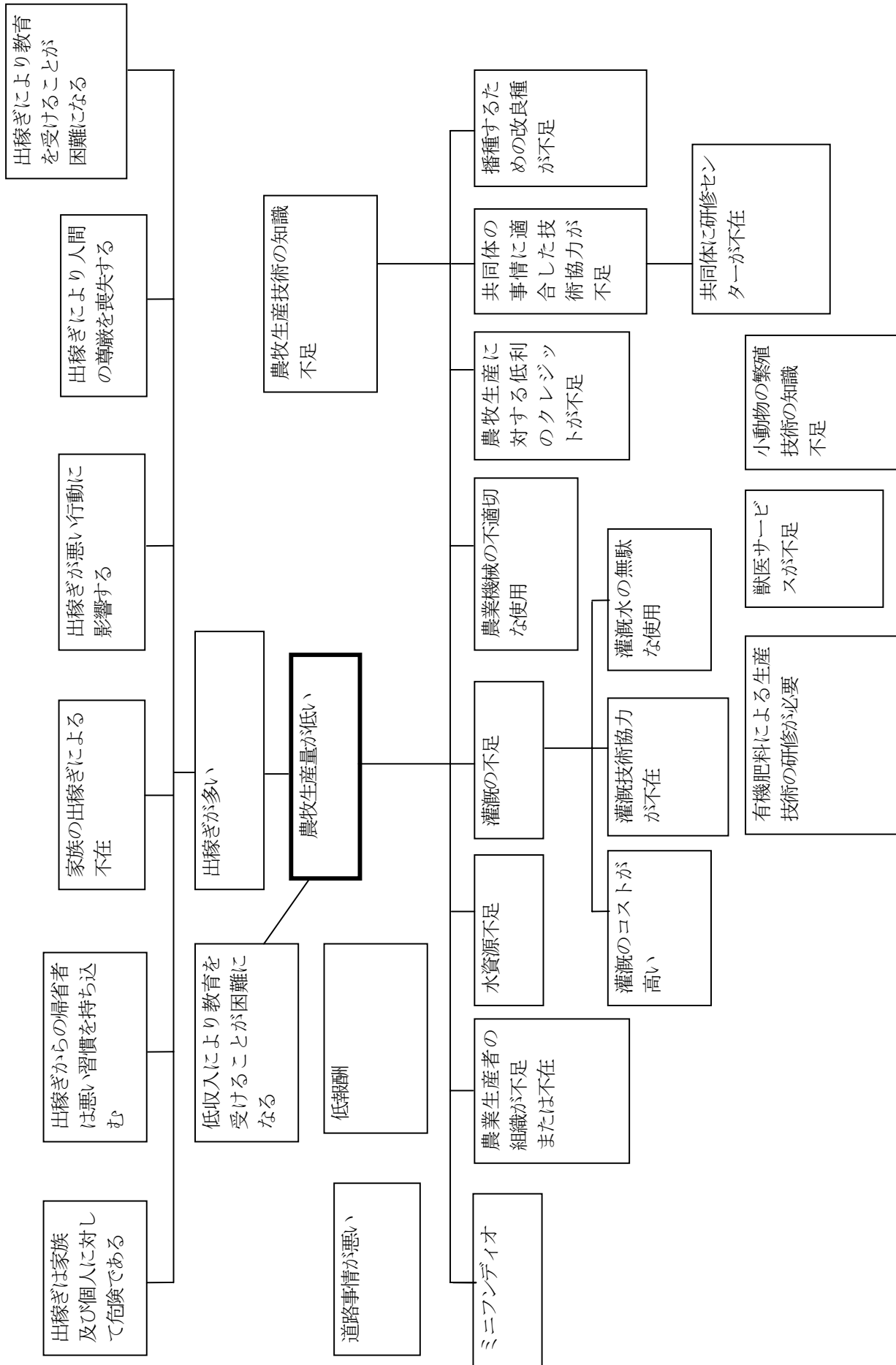
Sarachupa (グアモテ郡) 男・女ワークショップ (その2)



Sarachupa (グアモテ郡) 男・女ワークショップ (その3)



Sarachupa



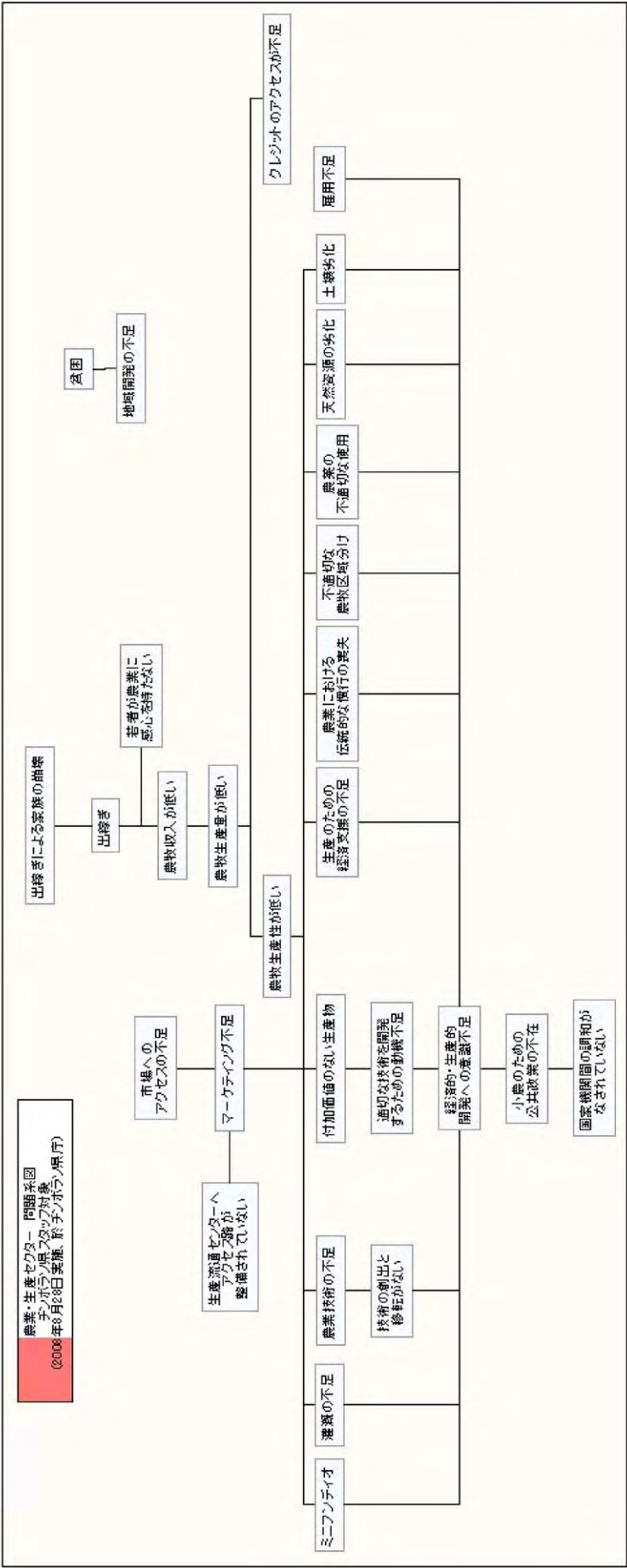
チンボラソ県政府職員ワークショップの結果

2008 年 8 月 28 日(木)の午前に、本案件のカウンターパートとなるチンボラソ県職員を対象としたワークショップを開催した。参加者は、総務管理部門、農業・生産部門、保健・教育部門など、広く参加が得られた。参加者は 30 名程度であった。

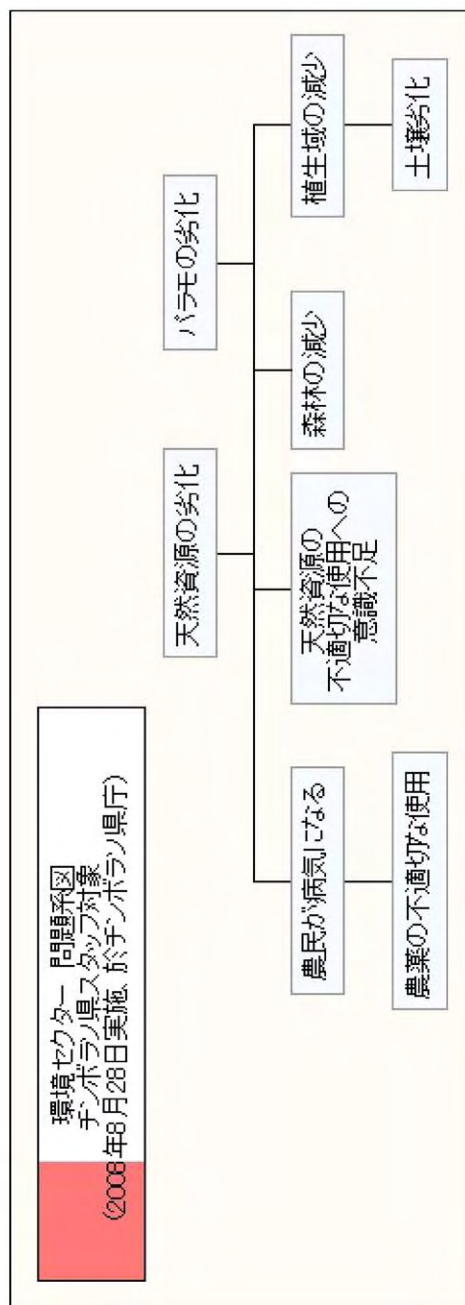
ワークショップでは、貧困問題の原因をカードに書いていただき、それを原因と結果の関係に分類すると共に、いくつかのセクター(分野)に分類したものが次のものである。農業・生産セクター、環境セクター、教育セクター、保健セクター、インフラ、組織、アイデンティティの 7 つの分野に整理された。

時間的な都合により、因果関係が十分に分析できなかったが、チンボラソ県政府職員が考える地方集落の貧困問題として、農業・生産セクターと保健セクターの問題が多く抽出されていることが分かる。また、先住民が多く居住する同県の特徴を示すようにアイデンティティという分野もひとつのカテゴリとしてまとめられることとなった。

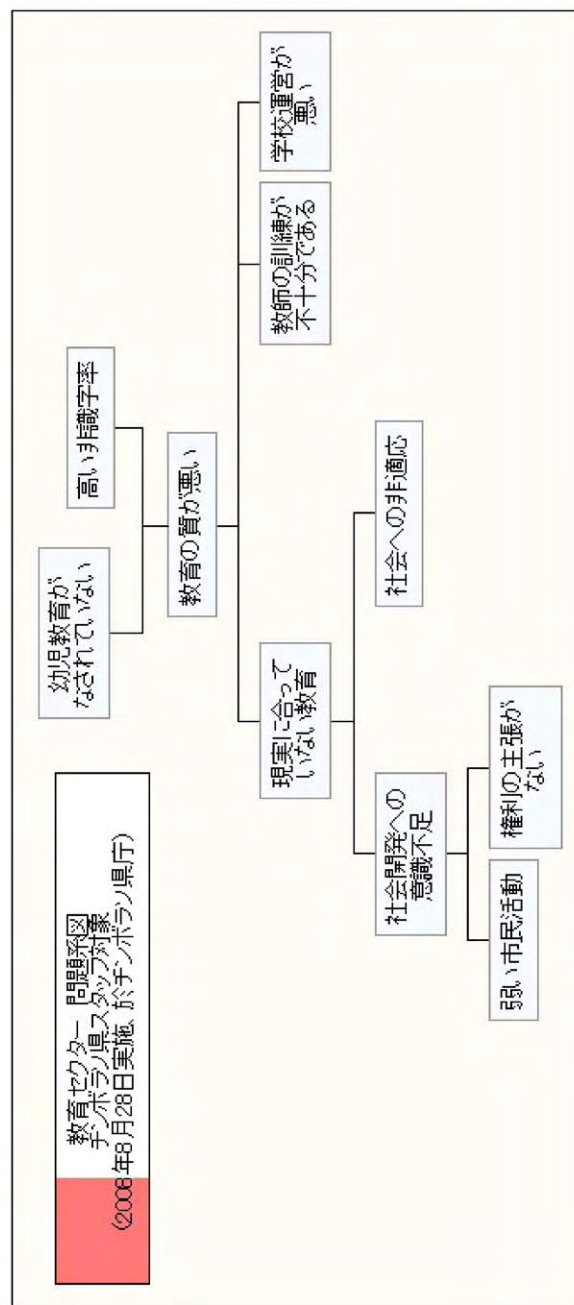
1. 農業・生産セクター



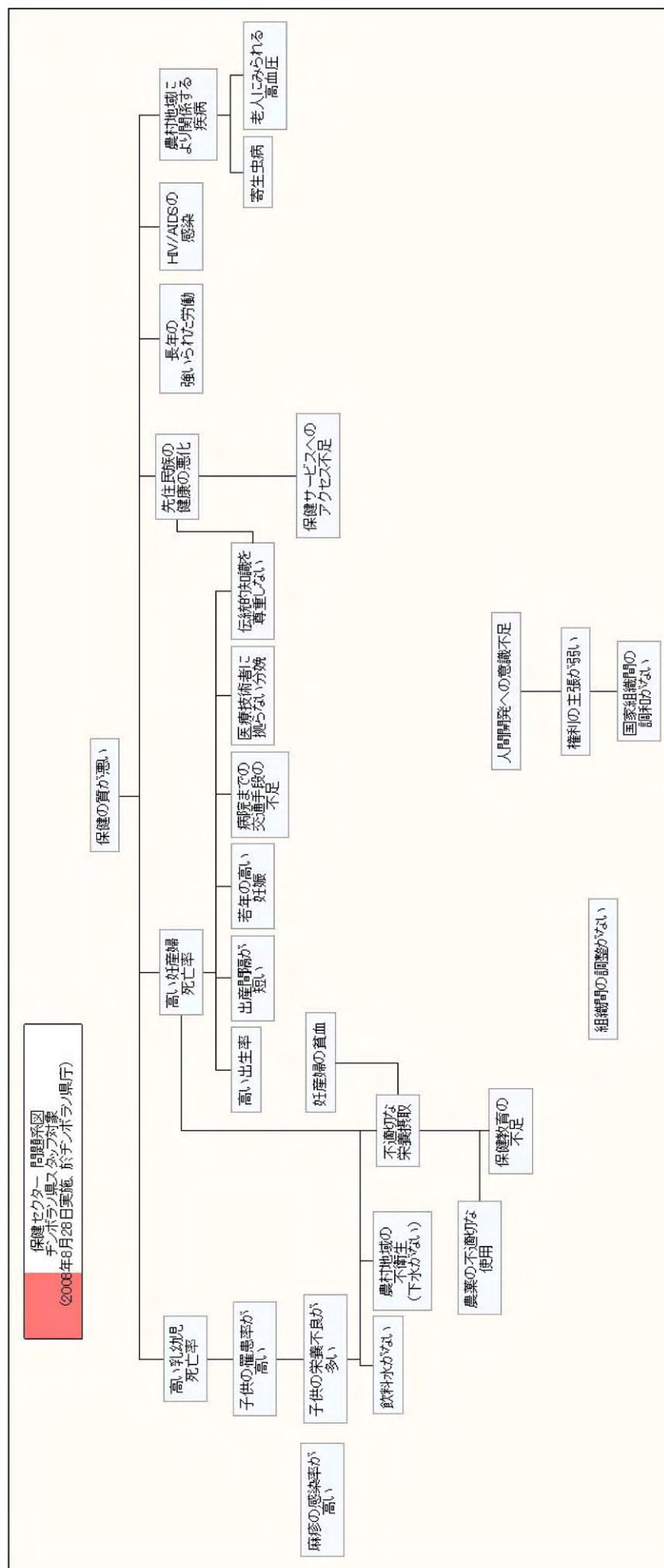
2. 環境セクター



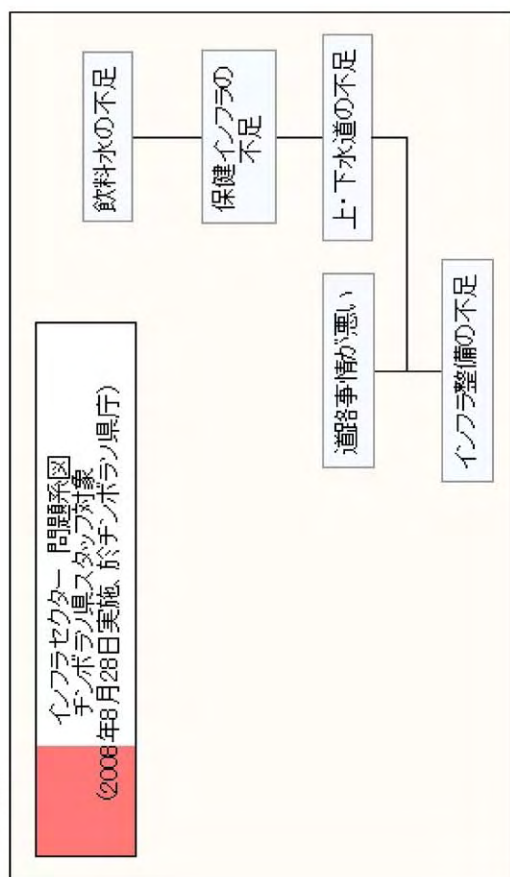
3. 教育セクター



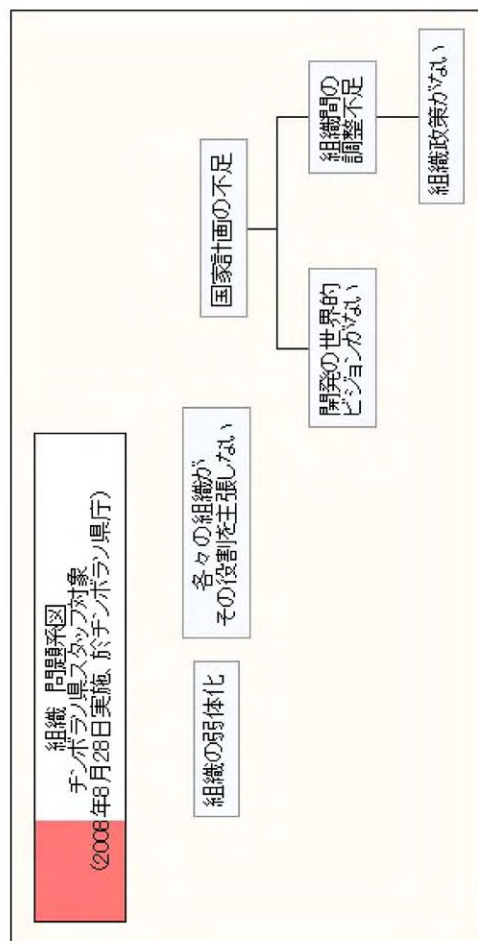
4. 保健セクタ―



5. インフラ



6. 組織



7. アイデンティティ

